



第6回

学生生活実態調査

2016年度

日本赤十字看護大学

目 次

I 調査の目的と方法	1
1. 調査の目的	
2. 調査の方法	
1) 調査票	
2) 調査対象	
II 結果と考察	3
1. 住居について	
1) 住居形態	
2) 住居の満足度	
2. 経済面について	6
1) 1ヶ月の平均収入額	
(1)家族からの援助額 (2)現在受けている奨学金の種類	
(3)アルバイトの収入状況 (4)授業期間中のアルバイト収入状況	
(5)職場からの収入	
2) 1ヶ月の平均総支出額	
(1)平均食費 (2)自宅外通学生の平均住居費 (3)平均勉学費	
(4)平均通学費 (5)平均教養・娯楽費 (6)平均嗜好品費	
(7)平均教養・娯楽費 (8)平均習い事費 (9)1ヶ月の平均通信費	
(10)平均総支出額	
3. アルバイトについて	15
1) アルバイト実施期間	
2) アルバイトの主な目的	
3) 授業期間中のアルバイト実施状況	
4) 長期休暇中のアルバイト実施状況	
4. 課外活動について	20
1) 加入している学内・学外のクラブ及び同好会	

2) 加入している学内のサークル・同好会	
3) 加入経験のある学外のサークル・同好会	
4) 課外活動への参加理由	
5) 課外活動における中途退会の理由	
6) 課外活動に最初から加入しない理由	
7) 課外教育	
(1)夏期休暇の主な行動	
(2)課外教育の経験の有無と受講講座	
(3)課外教育プログラムへの希望	
5. 生活時間について 27
1) 睡眠時間	
2) 学習時間	
3) 自由時間	
4) 通学時間	
6. 健康状態について 33
1) 身体面の健康	
2) 食生活について	
3) 精神面の健康	
(1)入学から今までの悩みや不安	(2)大学の学生相談室の利用状況
(3)学生相談室の今後の利用意向	
7. 大学生生活全般について 41
1) 本学を選択した理由	
2) 入学満足度	
3) 勉強の継続についての意向	
4) 学生生活の充実度	
5) 大学生活の中で大切に思っていること	
6) 大学に対する期待や要望	
8. 卒業後の進路について 50
1) 卒業後の進路希望	
2) 就職したい病院	
3) 大学院進学	

附録（調査票）

I. 調査の目的と方法

1. 調査の目的

本学が1986年に開学して以来、学生生活委員会は学生が正規教育以外の諸活動を通じて、より豊かな人間形成を計るために、学生の生活実態を把握することを目的にした全学部生（編入生を含む）を対象とした調査を実施してきた。本調査は、1990年に第1回が実施され、今回は第6回目の調査である。前回（2011年）から5年間を経た調査であり、この5年間における学生生活の推移を検討することを目的にした。今回の調査では、大学院博士後期課程及び5年生一貫制博士課程も調査対象にしたことなどが特徴として挙げられる。

2. 調査の方法

1) 調査票

第5回目（2011年）の実態調査において用いられた質問項目を再度吟味し、現在の学生においてもその生活実態を適切に把握できると判断される項目はそのまま温存した。また、現在の学生の生活に合致しない項目は改訂し、新しい項目を追加するなどの検討を行った。質問は大きく9側面（細かくは66項目、フェースシートも含む）から構成される調査票が作成された。質問内容は概ね以下のように構成されている。

- ①住居（質問1から2）：住居の種類、住居状態と満足度など3項目
- ②経済面（質問3から4）：学費や生活費など14項目
- ③アルバイト（質問5）：アルバイト状況についての7項目
- ④課外活動（質問6）：サークル、課外教育など11項目
- ⑤生活時間（質問7）：睡眠時間、学習時間、通学時間など9項目
- ⑥健康状態（質問8から12）：心身の健康状態、食生活、心理相談室利用状況など9項目
- ⑦大学生生活全般（質問13）：本学選択の理由、学生生活の充実度、本学への希望や要望など7項目
- ⑧卒業後の進路（質問14）：卒業後の進路について3項目
- ⑨その他（フェースシート）：学年と出身地など3項目

平成28年11月から12月に配布し、学部は授業終了時に配布しその場での回収もしくはレターボックスにて回収した。大学院は院生に机上に配布しレポートボックスにて回収した。

2) 調査対象

調査対象は、本学の学部生1年生から4年生までの603名、大学院修士課程・博士後期課程・5年生一貫博士課程の134名を対象に悉皆調査を実施した。回収率は、表I-1に示したように、1年生で43.5%、2年生で42.4%、3年生で一般学生が54.2%、編入3年生が72.7%、4年生で一般が76.2%で、編入4年生が58.3%であった。大学院の看護学専攻では59.0%、国際保健助産学専攻では65.6%、大学院博士では43.9%であった。平均回収率は約54.6

%（学部）、56.0%（大学院）、全体で55.4%であった。前回の52.8%から若干ではあるが増加が、まだ低いのが現状である。学部は、授業中に回収をした学年としなかった学年の回収率に差が出てしまった。大学院においては、本調査に対するオリエンテーションが弱かったと考えられる。

表 I - 1 学年別からみた調査対象者の配布数、回収数、回収率

	配布数	回収数	回収率
1年	147	64	43.5
2年	144	61	42.4
3年	142	77	54.2
編入3年	11	8	72.7
4年	147	112	76.2
編入4年	12	7	58.3
大学院修士 (看護学専攻)	61	36	59.0
大学院修士(国 際保健助産学 専攻)	32	21	65.6
大学院博士(5 年生一貫博士 課程含)	41	18	43.9
無回答	—	4	—
合計	737	408	55.4

Ⅱ 結果と考察

1. 住居について

1) 住居形態（質問1）

表1-1、1-2に示すように、回答の得られた408名のうち、実家からの通学者267名（65.4%）、実家以外で暮らす者137名（33.6%）であった。実家以外の内訳は、アパート・マンションが最も多く103名（75.2%）であり、学生会館の利用は8名（5.8%）であった。

2015年3月末に武蔵野キャンパスにあった学生寮が廃止となり、同年7月より学生会館と業務提携を行い利用可能となったことで、アパート・マンション、下宿、学生会館とに分散されたと思われる。

自宅通学者の割合について、今までは増加傾向であったが、横ばいとなりつつある。1990年の調査では25%程度、1996年の調査では38%程度、2000年及び2006年では63.5%、2011年は66.0%、今回の調査では65.4%であった。近年の地方都市での看護系大学の増加にともない、自宅から通える範囲での大学選択が可能となったことが影響していると考えられる。

表1-1 現在の住居形態

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
実家	267	65.4	54	84.4	49	80.3	61	71.8	82	68.9	18	24.0	3	75.0
実家以外	137	33.6	10	15.6	10	16.4	23	27.1	36	30.3	57	76.0	1	25.0
その他	4	1.0	-	-	2	3.3	1	1.2	1	0.8	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図1-1 現在の住居形態

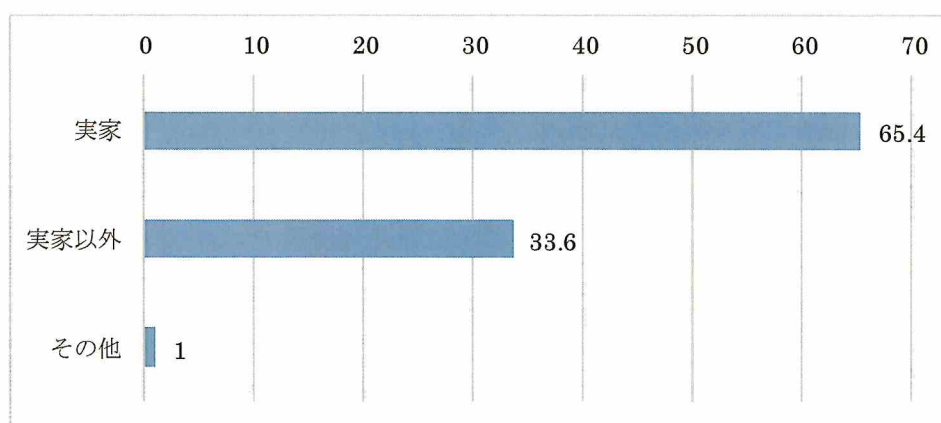
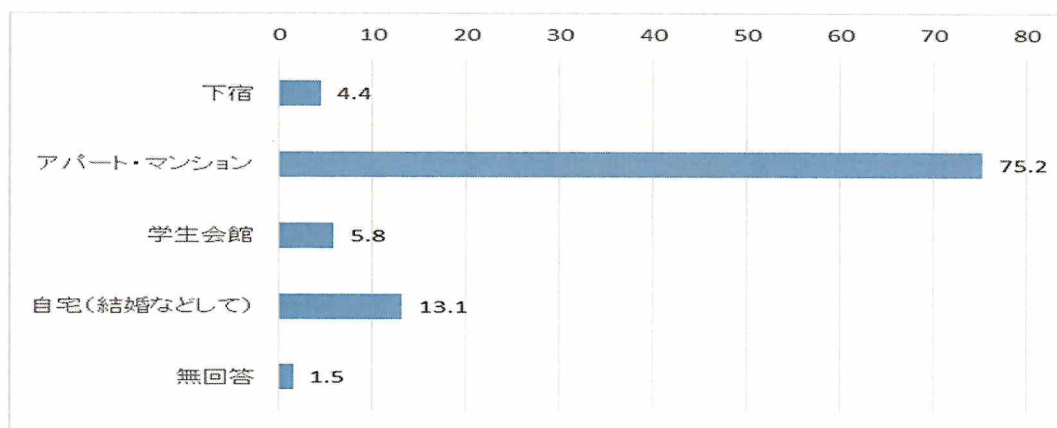


表1-2 現在の住居（実家以外）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	137	100.0	10	100.0	10	100.0	23	100.0	36	100.0	57	100.0	1	100.0
下宿	6	4.4	2	20.0	1	10.0	1	4.3	1	2.8	1	1.8	-	-
アパート・ マンション	103	75.2	5	50.0	9	90.0	19	82.6	31	86.1	38	66.7	1	100.0
学生会館	8	5.8	3	30.0	-	-	2	8.7	2	5.6	1	1.8	-	-
自宅(結婚 などして)	18	13.1	-	-	-	-	1	4.3	-	-	17	29.8	-	-
無回答	2	1.5	-	-	-	-	-	-	2	5.6	-	-	-	-

図1-2 現在の住居（実家以外）



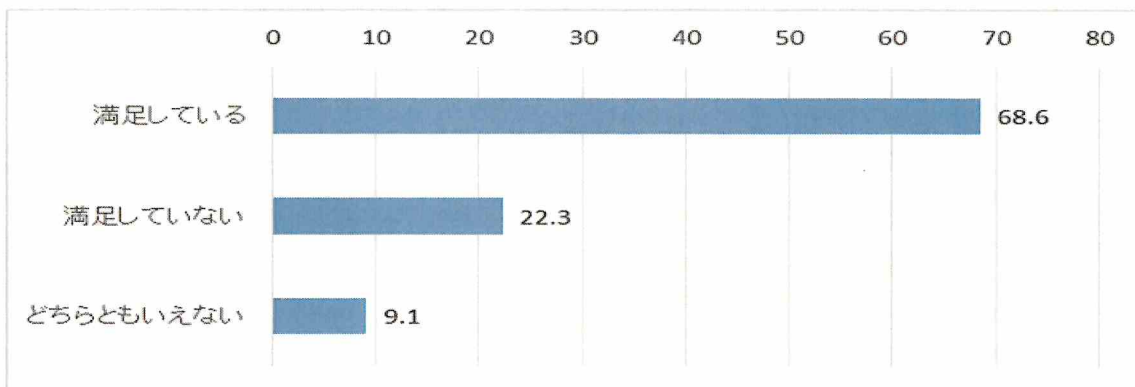
2) 住居の満足度（質問2）

現在の住居に関する満足度については表1-3のように、「満足している」280名（68.6%）、「満足していない」91名（22.3%）の順に多く、「どちらともいえない」37名（9.1%）であった。表1-3は学年別に住居の満足度を示したものである。満足度の高い学年は1年生（70.3%）と3年生+編入3年生（76.5%）であり、満足していない割合は学年があがるほど高くなる傾向が窺える。学年が上がるにつれて、活動範囲が広がっている可能性が考えられた。

表1-3 住居の満足度（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
満足している	280	68.6	45	70.3	39	63.9	65	76.5	78	65.5	49	65.3	4	100.0
満足していない	91	22.3	9	14.1	13	21.3	17	20.0	32	26.9	20	26.7	-	-
どちらともい えない	37	9.1	10	15.6	9	14.8	3	3.5	9	7.6	6	8.0	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図1-3 住居の満足度

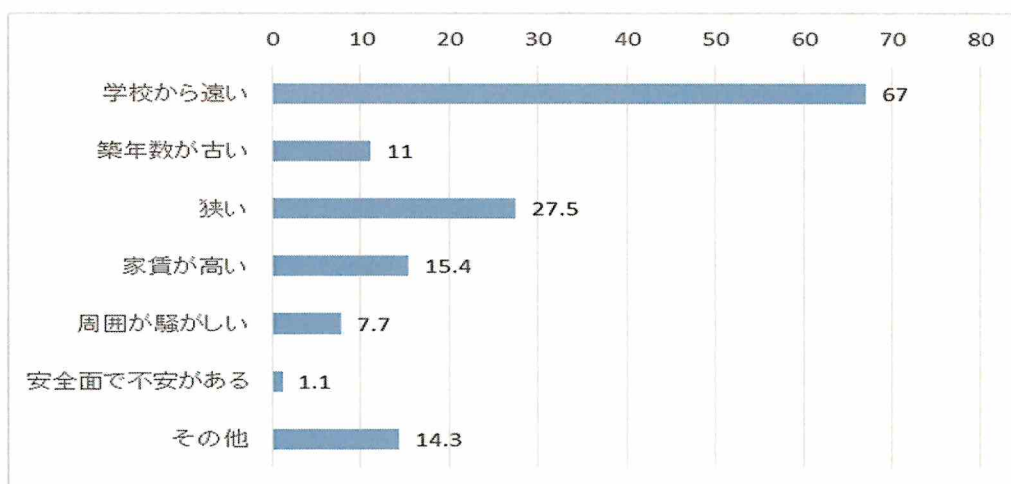


満足していない理由として回答の多かった順に挙げると（複数回答）、有効回答数91名のなかで、「学校から遠い」61名（67.0%）、「狭い」25名（27.5%）、「築年数が古い」10名（11.0%）となっていた（表1-4）。その他に挙げられた理由には、「家賃が高い」「周囲が騒がしい」「安全面で不安がある」などがあつた。

表1-4 住居に満足していない理由（学年別：複数回答）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	91	100.0	9	100.0	13	100.0	17	100.0	32	100.0	20	100.0
学校から遠い	61	67.0	8	88.9	10	76.9	8	47.1	23	71.9	12	60.0
築年数が古い	10	11.0	-	-	-	-	1	5.9	6	18.8	3	15.0
狭い	25	27.5	1	11.1	4	30.8	3	17.6	10	31.3	7	35.0
家賃が高い	14	15.4	1	11.1	-	-	1	5.9	5	15.6	7	35.0
周囲が騒がしい	7	7.7	-	-	-	-	2	11.8	5	15.6	-	-
安全面で不安がある	1	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5.0
その他	13	14.3	1	11.1	3	23.1	4	23.5	5	15.6	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図1-4 住居に満足していない理由（複数回答）



2. 経済面について

1) 1ヶ月の平均収入額

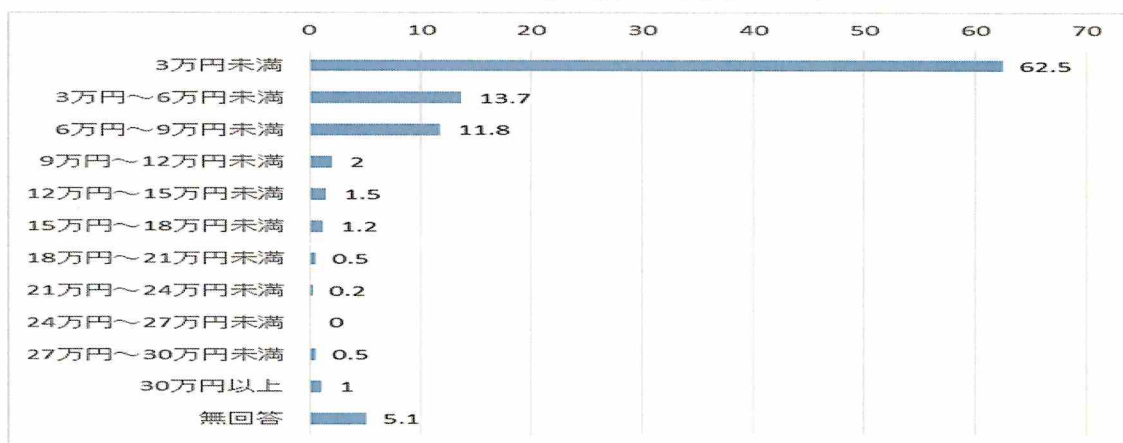
(1) 家族からの援助額（質問3のA）

家族からの生活費としての援助額については、図2-1の通り3万円未満が255名（62.5%）と最も多く、次いで3～6万円が56名（13.7%）であった。学年別では、表2-1のとおり1年生と2年生では3万円未満が65%を超えているが、3年生4年生となると65%を下回っている。大学院生も半数以上が家族からの生活費の援助を受けていた。

表2-1 家族からの援助額（生活費として）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
3万円未満	255	62.5	48	75.0	42	68.9	49	57.6	73	61.3	41	54.7	2	50.0
3万円～6万円未満	56	13.7	9	14.1	9	14.8	10	11.8	22	18.5	6	8.0	-	-
6万円～9万円未満	48	11.8	4	6.3	6	9.8	13	15.3	19	16.0	5	6.7	1	25.0
9万円～12万円未満	8	2.0	-	-	2	3.3	2	2.4	1	0.8	2	2.7	1	25.0
12万円～15万円未満	6	1.5	1	1.6	-	-	2	2.4	1	0.8	2	2.7	-	-
15万円～18万円未満	5	1.2	-	-	-	-	2	2.4	1	0.8	2	2.7	-	-
18万円～21万円未満	2	0.5	-	-	-	-	1	1.2	-	-	1	1.3	-	-
21万円～24万円未満	1	0.2	-	-	-	-	1	1.2	-	-	-	-	-	-
24万円～27万円未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
27万円～30万円未満	2	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2.7	-	-
30万円以上	4	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	4	5.3	-	-
無回答	21	5.1	2	3.1	2	3.3	5	5.9	2	1.7	10	13.3	-	-

図2-1 家族からの援助額（生活費として）



(2) 現在受けている奨学金の種類（質問3のB）

何らかの奨学金を受けている者は263名（64.5%）であり、受けていない者142名（34.8%）であった。奨学金受給者割合は、1990年73.5%、1996年76.1%と7割以上が受けていたが、2000年48.9%と一旦減少した後に、2006年は57.4%、2011年は72.2%と増加したが、

今回では減少していた。表2-2に学年別の奨学金受給状況を示した。受給率は2年生46名（75.4%）、4年生87名（73.1%）、1年生43名（67.2%）、3年生56名（65.9%）の順で高かった。大学院生の受給率が29名（38.7%）であり、一般学生に比べ低いのは、①申請時の年齢が高い、②すでに社会経験などで学費を確保している、③すでに看護師の資格を持っており収入があるなどが考えられる。受給奨学金の種別についてみると、「日本赤十字社都道府県支部及び赤十字病院関係」157名（38.5%）、「日本学生支援会（日本育英会）82名（20.1%）」「日本赤十字社医療センター」61名（15.0%）であった。

表2-2 学年別奨学金受給状況

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
日本赤十字社医療センター	61	15.0	8	12.5	7	11.5	21	24.7	24	20.2	-	-	1	25.0
日本赤十字社都道府県支部および赤十字病院	157	38.5	29	45.3	35	57.4	30	35.3	59	49.6	3	4.0	1	25.0
日本学生支援機構第一種	38	9.3	8	12.5	4	6.6	9	10.6	12	10.1	5	6.7	-	-
日本学生支援機構第二種	44	10.8	8	12.5	10	16.4	8	9.4	10	8.4	8	10.7	-	-
その他	39	9.6	4	6.3	4	6.6	7	8.2	8	6.7	16	21.3	-	-
受けていない	142	34.8	21	32.8	14	23.0	29	34.1	32	26.9	44	58.7	2	50.0
無回答	3	0.7	-	-	1	1.6	-	-	-	-	2	2.7	-	-

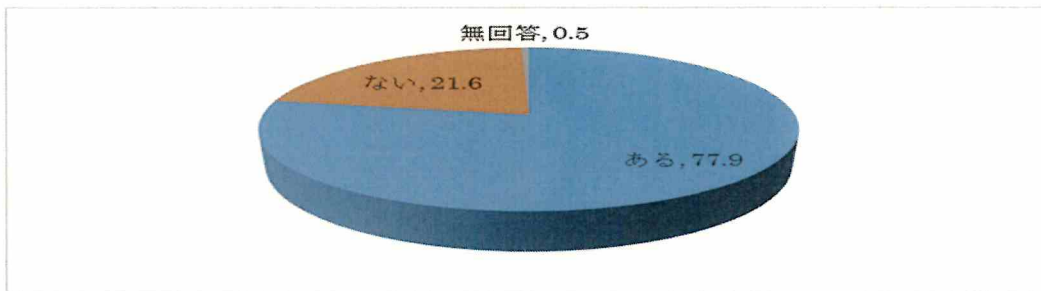
(3) アルバイトの収入状況（質問3のC）

アルバイトによる収入ありは、318名（77.9%）であった（図2-2）。学部生は全学年で8割以上がアルバイトにて収入を得ており、社会経験を積むだけではなく、社会的経済状況が厳しい学生もいることが推察された（表2-3）。一方、大学院生はアルバイトによる収入ありは4割弱にとどまっていた。後述する職場からの収入を得ている学生は2名と少数であり、入学前の貯蓄や家族からの援助により生計を立てている者がいることが窺われた。

表2-3 アルバイトによる収入（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
ある	318	77.9	52	81.3	56	91.8	73	85.9	106	89.1	29	38.7	2	50.0
ない	88	21.6	12	18.8	4	6.6	12	14.1	13	10.9	45	60.0	2	50.0
無回答	2	0.5	-	-	1	1.6	-	-	-	-	1	1.3	-	-

図2-2 アルバイトによる収入



(4)授業期間中のアルバイト収入状況（質問3のD）

授業期間中の1か月のアルバイト収入額は、1年生では3～4万円が13名（25.0%）と最も多く、その前後の2～3万円・4～5万円が15%を超えていた。3年生では4～5万円が14名（19.2%）と最も多く、その前後5～6万円・3～4万円が続いた。4年生では、4～5万円・7～8万円が18名（17.0%）と最も多く、その間の5～6万円が17名（16.0%）と続いた。これに対し、2年生では3～4万円が12名（21.4%）と最も多かったが、2番目が9～10万円11名（19.6%）とかなり収入を得ている学生がいた。10万円以上の収入を得ていた学部生もおり、4年生6名、3年生4名・1年生1名の順であった。大学院生は10万円以上が6名（20.7%）と最も多く占めていた（表2-4）。

表2-4 授業期間中のアルバイト収入状況（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	318	100.0	52	100.0	56	100.0	73	100.0	106	100.0	29	100.0	2	100.0
1万円未満	9	2.8	1	1.9	-	-	3	4.1	1	0.9	3	10.3	1	50.0
1万円～2万円未満	23	7.2	6	11.5	-	-	3	4.1	11	10.4	3	10.3	-	-
2万円～3万円未満	30	9.4	8	15.4	4	7.1	4	5.5	9	8.5	5	17.2	-	-
3万円～4万円未満	48	15.1	13	25.0	12	21.4	11	15.1	10	9.4	2	6.9	-	-
4万円～5万円未満	48	15.1	8	15.4	4	7.1	14	19.2	18	17.0	4	13.8	-	-
5万円～6万円未満	50	15.7	6	11.5	10	17.9	13	17.8	17	16.0	3	10.3	1	50.0
6万円～7万円未満	20	6.3	5	9.6	4	7.1	5	6.8	4	3.8	2	6.9	-	-
7万円～8万円未満	34	10.7	2	3.8	6	10.7	8	11.0	18	17.0	-	-	-	-
8万円～9万円未満	19	6.0	2	3.8	4	7.1	6	8.2	7	6.6	-	-	-	-
9万円～10万円未満	17	5.3	-	-	11	19.6	1	1.4	4	3.8	1	3.4	-	-
10万円以上	17	5.3	1	1.9	-	-	4	5.5	6	5.7	6	20.7	-	-
無回答	3	0.9	-	-	1	1.8	1	1.4	1	0.9	-	-	-	-

(5)職場からの収入（質問3のF）

職場からの収入は主に大学院生を想定した設問であった。看護学専攻の学生には休職中の者が多いのか、約3割弱がこの収入があることがわかった。

表2-5 職場からの収入

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	318	100.0	52	100.0	56	100.0	73	100.0	106	100.0	29	100.0	2	100.0
ある	14	4.4	2	3.8	3	5.4	5	6.8	2	1.9	2	6.9	-	-
ない	238	74.8	40	76.9	45	80.4	54	74.0	73	68.9	24	82.8	2	100.0
無回答	66	20.8	10	19.2	8	14.3	14	19.2	31	29.2	3	10.3	-	-

2) 1ヶ月の平均総支出額

(1)平均食費（質問4のA）

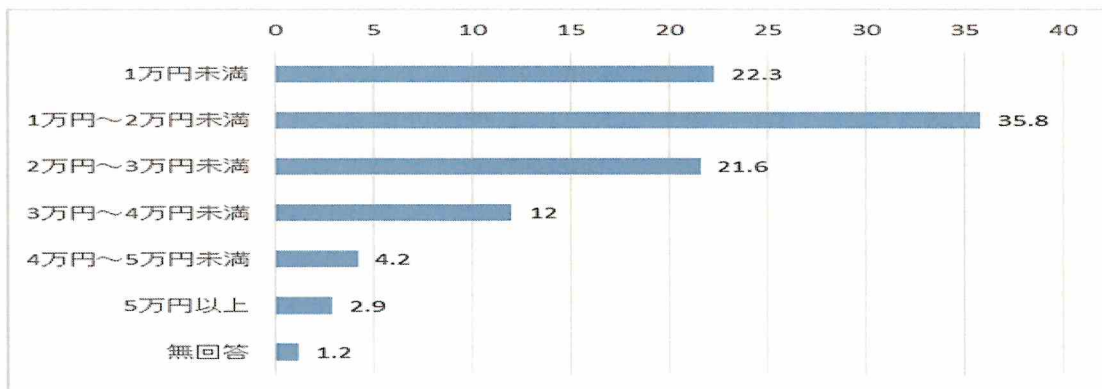
平均食費は、自宅通学生の場合には外食費として尋ねた。「1～2万円未満」が146名（35.8%）と最も多く、次いで、「1万円未満」91名（22.3%）、「2～3万円未満」88名（21.6%）の順に多かった。前回まで最も多かったは「1万円未満」133名（37.3%）であり、金額が増えていた。

大学院生は、「1～2万円未満」「2～3万円未満」「3～4万円未満」はそれぞれ20%を超えており、あわせると8割近くを占めていた。（表2-6）

表2-6 1ヶ月の平均食費（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
1万円未満	91	22.3	24	37.5	11	18.0	23	27.1	27	22.7	6	8.0	-	-
1万円～2万円未満	146	35.8	31	48.4	21	34.4	30	35.3	41	34.5	21	28.0	2	50.0
2万円～3万円未満	88	21.6	7	10.9	17	27.9	17	20.0	25	21.0	20	26.7	2	50.0
3万円～4万円未満	49	12.0	-	-	8	13.1	10	11.8	13	10.9	18	24.0	-	-
4万円～5万円未満	17	4.2	1	1.6	-	-	3	3.5	7	5.9	6	8.0	-	-
5万円以上	12	2.9	1	1.6	1	1.6	2	2.4	4	3.4	4	5.3	-	-
無回答	5	1.2	-	-	3	4.9	-	-	2	1.7	-	-	-	-

図2-3 1ヶ月の平均食費



(3)自宅外通学生の平均住居費（質問4のB）

回答の得られた自宅学通学者141名（141名中4名不明）の家賃、光熱水道費を含む1ヶ月の平均住居費は表2-7のとおりである。「7～9万円未満」29名（20.6%）、「9～11万円未満」24名（17.0%）の順に多かった（表2-7）。

表2-7 1ヶ月の平均住宅費（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	141	100.0	10	100.0	12	100.0	24	100.0	37	100.0	57	100.0	1	100.0
3万円未満	23	16.3	3	30.0	4	33.3	4	16.7	10	27.0	2	3.5	-	-
3万円～5万円未満	7	5.0	-	-	-	-	-	-	2	5.4	5	8.8	-	-
5万円～7万円未満	17	12.1	-	-	2	16.7	2	8.3	6	16.2	7	12.3	-	-
7万円～9万円未満	29	20.6	3	30.0	3	25.0	9	37.5	8	21.6	6	10.5	-	-
9万円～11万円未満	24	17.0	-	-	1	8.3	5	20.8	9	24.3	9	15.8	-	-
11万円以上	20	14.2	2	20.0	-	-	2	8.3	1	2.7	14	24.6	1	100.0
無回答	21	14.9	2	20.0	2	16.7	2	8.3	1	2.7	14	24.6	-	-

(4)平均勉学費（質問4のC）

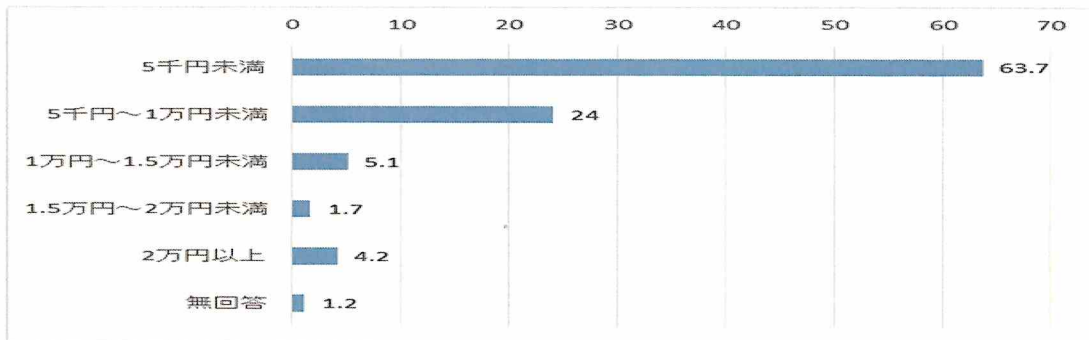
学納金を除いた書籍、文具、コピー等に要する1ヶ月の平均勉学費は、回答数の多かった順に「5千円未満」260名（63.7%）、「5千～1万円未満」98名（24.0%）で9割弱が1万円未満であった（表2-8、図2-4）。

大学院生は、「5千～1万円未満」に占める割合が半数程度で最も多く、学部生が最も多く占める「5千円未満」と比較してやや多い傾向であった。

表2-8 1ヶ月の平均勉学費（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
5千円未満	260	63.7	57	89.1	48	78.7	68	80.0	76	63.9	9	12.0	2	50.0
5千円～1万円未満	98	24.0	6	9.4	8	13.1	16	18.8	32	26.9	34	45.3	2	50.0
1万円～1.5万円未満	21	5.1	1	1.6	2	3.3	1	1.2	4	3.4	13	17.3	-	-
1.5万円～2万円未満	7	1.7	-	-	-	-	-	-	2	1.7	5	6.7	-	-
2万円以上	17	4.2	-	-	-	-	-	-	3	2.5	14	18.7	-	-
無回答	5	1.2	-	-	3	4.9	-	-	2	1.7	-	-	-	-

図2-4 1ヶ月の平均勉学費



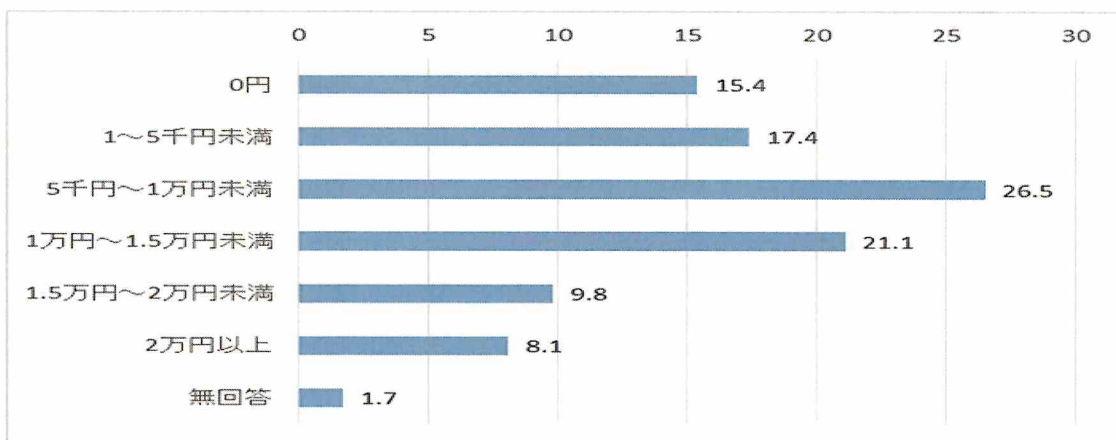
(5)平均通学費（質問4のD）

1ヶ月の平均通学費は、「5千～1万円未満」108名（26.5%）、「1～1万5千円未満」86名（21.1%）、「1～5千円未満」71名（17.4%）の順に多く、この順は前回調査と変わらない（表2-9）。2万円以上かかる学生は、自宅からの通学であることも考えられる。

表2-9 1ヶ月の平均通学費（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
0円	63	15.4	14	21.9	13	21.3	14	16.5	17	14.3	5	6.7	-	-
1～5千円未満	71	17.4	10	15.6	6	9.8	17	20.0	22	18.5	16	21.3	-	-
5千円～1万円未満	108	26.5	10	15.6	15	24.6	20	23.5	29	24.4	30	40.0	4	100.0
1万円～1.5万円未満	86	21.1	18	28.1	12	19.7	23	27.1	29	24.4	4	5.3	-	-
1.5万円～2万円未満	40	9.8	9	14.1	6	9.8	4	4.7	13	10.9	8	10.7	-	-
2万円以上	33	8.1	3	4.7	5	8.2	7	8.2	6	5.0	12	16.0	-	-
無回答	7	1.7	-	-	4	6.6	-	-	3	2.5	-	-	-	-

図2-5 1ヶ月の平均通学費



(6)平均教養・娯楽費（質問4のE）

CD、DVD、本等を含む1ヶ月の平均教養・娯楽費の平均金額は、回答数の多かった順に、「5千円未満」183名（44.9%）、「5千～1万円未満」93名（22.8%）、「1～1万5千円未満」53名（13.0%）となっていたが、個人差もみられる項目であった（表2-10）。

表2-10 1ヶ月の平均娯楽・嗜好品費（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
5千円未満	183	44.9	32	50.0	28	45.9	33	38.8	50	42.0	40	53.3	-	-
5千円～1万円未満	93	22.8	16	25.0	11	18.0	23	27.1	23	19.3	17	22.7	3	75.0
1万円～1.5万円未満	53	13.0	7	10.9	7	11.5	12	14.1	19	16.0	8	10.7	-	-
1.5万円～2万円未満	23	5.6	2	3.1	6	9.8	7	8.2	6	5.0	2	2.7	-	-
2万円以上	52	12.7	7	10.9	7	11.5	10	11.8	20	16.8	7	9.3	1	25.0
無回答	4	1.0	-	-	2	3.3	-	-	1	0.8	1	1.3	-	-

(7)平均嗜好品費（質問4のF）

煙草、酒、レジャー等を含む、1ヶ月の平均嗜好品費は、「5千円未満」が208名（51.0%）と最も多く、ついで「5千円～1万円未満」が92名（22.5%）、「1～1万5千円未満」43名（10.5%）であった（表2-11）。前回の2011年の調査と似た傾向であった。大学院生も「5千円未満」が割合としては多く、学部生と似た分布であった。

表2-11 1ヶ月の平均嗜好品費

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
5千円未満	208	51.0	41	64.1	29	47.5	43	50.6	53	44.5	41	54.7	1	25.0
5千円～1万円未満	92	22.5	16	25.0	14	23.0	19	22.4	25	21.0	16	21.3	2	50.0
1万円～1.5万円未満	43	10.5	4	6.3	5	8.2	12	14.1	11	9.2	10	13.3	1	25.0
1.5万円～2万円未満	27	6.6	2	3.1	4	6.6	5	5.9	13	10.9	3	4.0	-	-
2万円以上	33	8.1	1	1.6	6	9.8	6	7.1	15	12.6	5	6.7	-	-
無回答	5	1.2	-	-	3	4.9	-	-	2	1.7	-	-	-	-

(8)平均習い事費（質問4のG）

1カ月の習い事に要する平均費用は、「5千円未満」341名（83.6%）が最も多かった（表2-12）。

表2-12 1ヶ月の平均習い事費

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
5千円未満	341	83.6	50	78.1	47	77.0	76	89.4	108	90.8	58	77.3	2	50.0
5千円～1万円未満	26	6.4	5	7.8	11	18.0	-	-	3	2.5	6	8.0	1	25.0
1万円～1.5万円未満	8	2.0	3	4.7	-	-	2	2.4	3	2.5	-	-	-	-
1.5万円～2万円未満	7	1.7	1	1.6	-	-	2	2.4	-	-	4	5.3	-	-
2万円以上	6	1.5	-	-	-	-	2	2.4	2	1.7	2	2.7	-	-
無回答	20	4.9	5	7.8	3	4.9	3	3.5	3	2.5	5	6.7	1	25.0

(9)1ヶ月の平均通信費（質問4のH）

携帯電話及びインターネット契約・接続料等を含む1ヶ月の平均通信費の平均額は、表2-13に示した。「5千～1万円未満」が154名（37.7%）と最も多く、「1～1万5千円未満」88名（21.6%）、「1千円未満」86名（21.1%）の順となっていた。平均通信費は、5千円～1万5千円の範囲を占めること、または勉学費や教養・娯楽費と比較すると、通信費が占める割合は大きいことも前回の調査結果と似ていた。

表2-13 1ヶ月の平均通信費（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
1千円未満	86	21.1	14	21.9	18	29.5	23	27.1	25	21.0	5	6.7	1	25.0
1千円～5千円未満	36	8.8	5	7.8	3	4.9	8	9.4	14	11.8	6	8.0	-	-
5千円～1万円未満	154	37.7	28	43.8	19	31.1	32	37.6	41	34.5	32	42.7	2	50.0
1万円～1.5万円未満	88	21.6	11	17.2	10	16.4	15	17.6	31	26.1	21	28.0	-	-
1.5万円～2万円未満	16	3.9	-	-	3	4.9	2	2.4	3	2.5	7	9.3	1	25.0
2万円～2.5万円未満	7	1.7	-	-	1	1.6	2	2.4	1	0.8	3	4.0	-	-
2.5万円～3万円未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3万円～3.5万円未満	1	0.2	-	-	-	-	1	1.2	-	-	-	-	-	-
3.5万円～4万円未満	2	0.5	-	-	1	1.6	-	-	1	0.8	-	-	-	-
4万円～4.5万円未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.5万円～5万円未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5万円以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	18	4.4	6	9.4	6	9.8	2	2.4	3	2.5	1	1.3	-	-

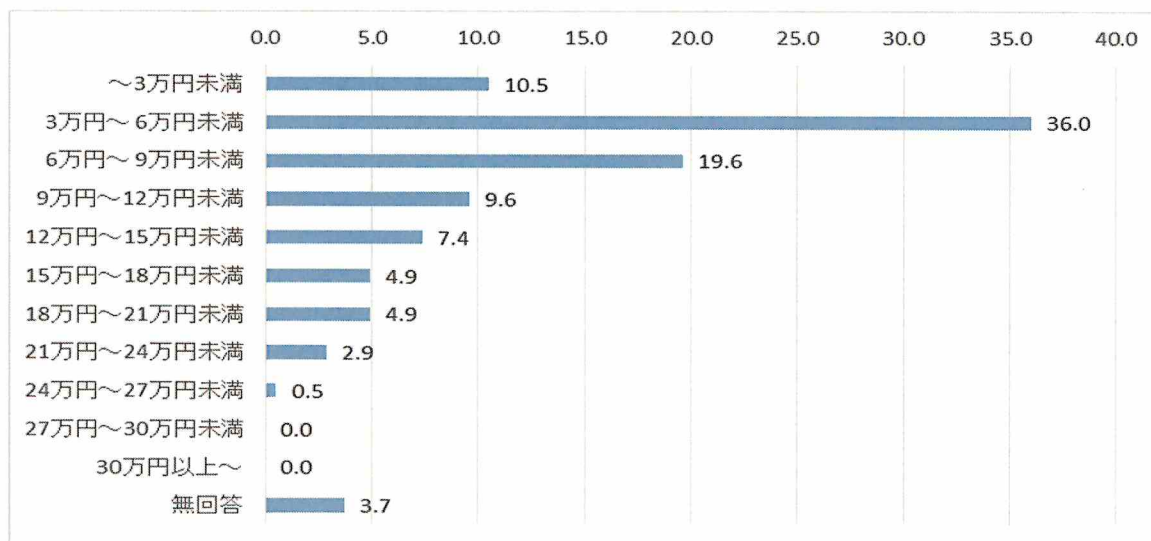
(10)平均総支出額（質問4のI）

1ヶ月の平均総支出額は、「3～6万円未満」147名（36.0%）が最も多く、「6～9万円未満」80名（19.6%）、「3万円未満」43名（10.5%）であり、最も多い支出額は前回同様であった。大学院生は、個人による差が大きかった（表2-14）。

表2-14 1ヶ月の平均総支出額（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
～3万円未満	43	10.5	14	21.9	3	4.9	11	12.9	12	10.1	3	4.0	-	-
3万円～6万円未満	147	36.0	33	51.6	24	39.3	34	40.0	47	39.5	9	12.0	-	-
6万円～9万円未満	80	19.6	9	14.1	15	24.6	16	18.8	26	21.8	12	16.0	2	50.0
9万円～12万円未満	39	9.6	3	4.7	7	11.5	4	4.7	13	10.9	11	14.7	1	25.0
12万円～15万円未満	30	7.4	2	3.1	2	3.3	8	9.4	11	9.2	7	9.3	-	-
15万円～18万円未満	20	4.9	-	-	2	3.3	5	5.9	4	3.4	9	12.0	-	-
18万円～21万円未満	20	4.9	1	1.6	2	3.3	3	3.5	1	0.8	13	17.3	-	-
21万円～24万円未満	12	2.9	-	-	-	-	2	2.4	3	2.5	7	9.3	-	-
24万円～27万円未満	2	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2.7	-	-
27万円～30万円未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
30万円以上～	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	15	3.7	2	3.1	6	9.8	2	2.4	2	1.7	2	2.7	1	25.0

図2-6 1ヶ月の平均総支出額



3. アルバイトについて

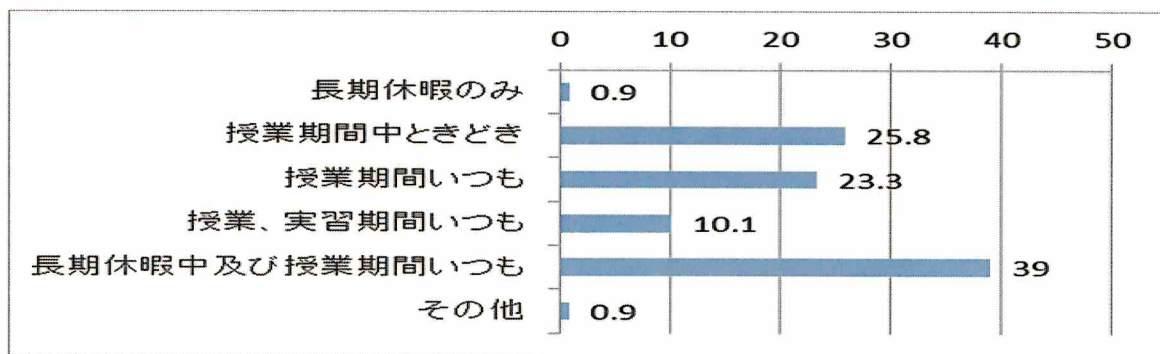
1) アルバイト実施期間（質問5のA）

アルバイトの実施期間について表3-1に示した。「長期休暇中及び授業期間いつも」124名（39.0%）が最も多く、「授業期間中ときどき」74名（23.3%）を合わせると学生の半数以上が年間を通じてアルバイトに従事していることがわかる。また前回同様、実習期間中であってもアルバイトを行っている学生の存在が示され32名（10.1%）、学業及び健康面への影響も懸念される。

表3-1 アルバイト実施期間（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	318	100.0	52	100.0	56	100.0	73	100.0	106	100.0	29	100.0	2	100.0
長期休暇のみ	3	0.9	-	-	-	-	1	1.4	-	-	2	6.9	-	-
授業期間中ときどき	82	25.8	15	28.8	12	21.4	15	20.5	22	20.8	18	62.1	-	-
授業期間いつも	74	23.3	15	28.8	14	25.0	19	26.0	23	21.7	2	6.9	1	50.0
授業、実習期間いつも	32	10.1	-	-	8	14.3	8	11.0	14	13.2	2	6.9	-	-
長期休暇中及び 授業期間いつも	124	39.0	21	40.4	22	39.3	30	41.1	46	43.4	5	17.2	-	-
その他	3	0.9	1	1.9	-	-	-	-	1	0.9	-	-	1	50.0
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図3-1 アルバイト実施期間



2) アルバイトの主な目的（質問5のB）

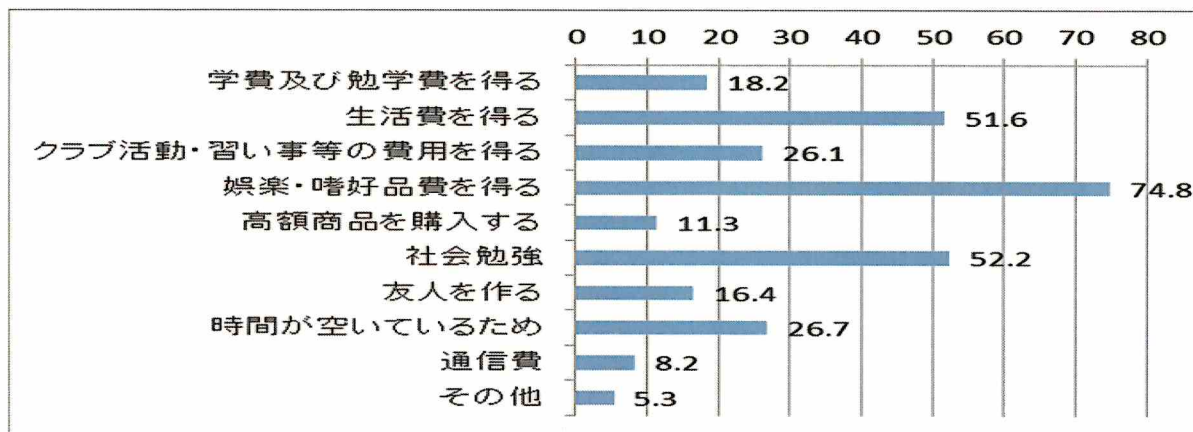
図3-2に挙げたアルバイトの主な目的の傾向としては、必ずしも経済的な必要に迫られたものでないような「娯楽・嗜好品費を得る」（74.8%）や「社会勉強」（52.2%）があり、前回調査と同様であった。一方、「生活費を得る」（51.6%）や「学費及び勉学費を得る」（18.2%）目的である場合もみられた。

学年別にみると、学部4年生は他の学年に比べ「生活費を得る」（59.4%）と多く、大学院生の場合は「生活費を得る」や「学費及び勉学費を得る」が主たる目的であった（表3-2）。

表3-2 アルバイトの目的（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	318	100.0	52	100.0	56	100.0	73	100.0	106	100.0	29	100.0	2	100.0
学費及び勉学費を得る	58	18.2	8	15.4	3	5.4	12	16.4	24	22.6	11	37.9	-	-
生活費を得る	164	51.6	23	44.2	24	42.9	28	38.4	63	59.4	25	86.2	1	50.0
クラブ活動・習い事等の費用を得る	83	26.1	21	40.4	17	30.4	15	20.5	30	28.3	-	-	-	-
娯楽・嗜好品費を得る	238	74.8	41	78.8	47	83.9	59	80.8	85	80.2	4	13.8	2	100.0
高額商品を購入する	36	11.3	3	5.8	9	16.1	13	17.8	11	10.4	-	-	-	-
社会勉強	166	52.2	35	67.3	28	50.0	42	57.5	52	49.1	9	31.0	-	-
友人を作る	52	16.4	9	17.3	7	12.5	15	20.5	19	17.9	2	6.9	-	-
時間が空いているため	85	26.7	10	19.2	26	46.4	25	34.2	23	21.7	1	3.4	-	-
通信費	26	8.2	1	1.9	3	5.4	10	13.7	11	10.4	1	3.4	-	-
その他	17	5.3	3	5.8	2	3.6	3	4.1	6	5.7	3	10.3	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図3-2 アルバイトの目的



3) 授業期間中のアルバイト実施状況（質問5のC、D、E、F）

授業期間中にアルバイトを行った経験のある学生のうち、1週間の平均アルバイト日数については表3-3に示した。最も多かったのが前回調査同様「2～3日」130名（69.1%）であった。大学院生では「1日」が最も多く16名（72.7%）となり、学部生との違いがみられた。

表3-3 授業期間中の1週間の平均アルバイト日数（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	188	100	30	100	34	100	42	100	59	100	22	100	1	100.0
1日	34	18.1	3	10	-	-	8	19	7	11.9	16	72.7	-	-
2～3日	130	69.1	24	80	28	82.4	28	66.7	43	72.9	6	27.3	1	100.0
4～5日	22	11.7	3	10	5	14.7	5	11.9	9	15.3	-	-	-	-
6～7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	1.1	-	-	1	2.9	1	2.4	-	-	-	-	-	-

1日の平均アルバイト時間は図3-3のとおりで、最も多いのは「5～6時間」62名（33.0%）である。前回の調査では「4時間～5時間未満」68名（27.5%）が最も多かったので5年前より平均アルバイト時間が伸びており、表3-4のとおり学部生は学年があがるにつれアルバイト時間が長くなっているといえる。また、前回の調査と同じく7割以上の学生が、授業期間中に4時間以上アルバイトに従事おり、大学院生はアルバイトの日数は少ないが、従事する時間が長い傾向にあった。

表3-5のとおり、1時間あたりの平均アルバイト賃金は「1000～1199円未満」が82名（43.6%）と最も多く、次いで「800～999円未満」となっており、前回の調査では「800～999円未満」がもっとも多かったので1時間あたりの平均アルバイト賃金があがっており、これは東京都最低賃金の改定によるものが大きいと考えられる。大学院生のアルバイト賃金は2000円以上（50.0%）が最も多く、学部生に比べると高い傾向が窺える。これは、表3-6に示すように、すでに看護職の免許を取得しているため医療職のアルバイトに従事していることが理由であると考えられる。

図3-3 授業期間中の1回の平均アルバイト時間

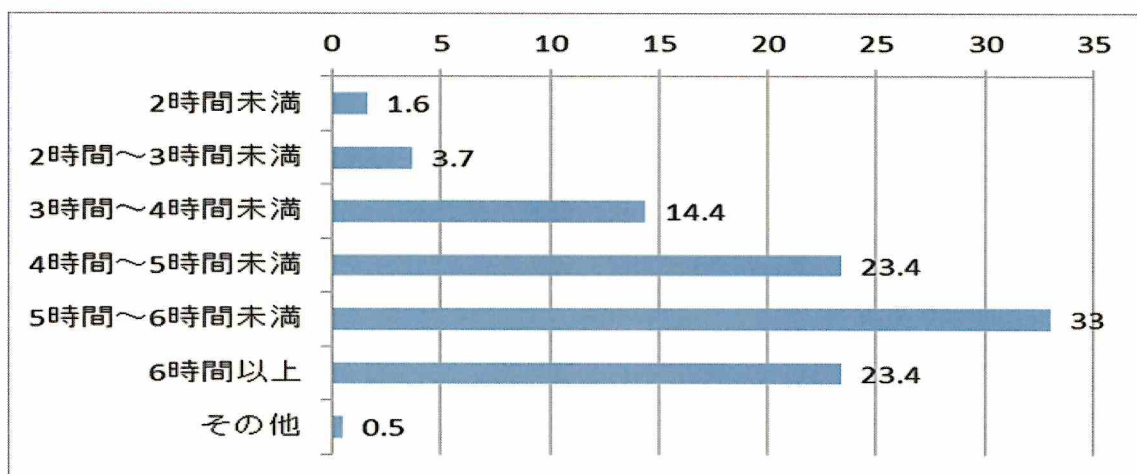


表3-4 授業期間中の1回の平均アルバイト時間（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	188	100.0	30	100.0	34	100.0	42	100.0	59	100.0	22	100.0	1	100.0
2時間未満	3	1.6	-	-	-	-	-	-	1	1.7	2	9.1	-	-
2時間～3時間未満	7	3.7	1	3.3	1	2.9	2	4.8	2	3.4	1	4.5	-	-
3時間～4時間未満	27	14.4	7	23.3	4	11.8	4	9.5	8	13.6	4	18.2	-	-
4時間～5時間未満	44	23.4	12	40.0	8	23.5	9	21.4	10	16.9	4	18.2	1	100.0
5時間～6時間未満	62	33.0	7	23.3	13	38.2	21	50.0	20	33.9	1	4.5	-	-
6時間以上	44	23.4	3	10.0	7	20.6	6	14.3	18	30.5	10	45.5	-	-
その他	1	0.5	-	-	1	2.9	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表3-5 授業期間中の1時間あたりの平均アルバイト賃金（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	188	100.0	30	100.0	34	100.0	42	100.0	59	100.0	22	100.0	1	100.0
～799円	2	1.1	-	-	-	-	1	2.4	1	1.7	-	-	-	-
800～999円	62	33.0	18	60.0	12	35.3	11	26.2	20	33.9	1	4.5	-	-
1,000～1,199円	82	43.6	10	33.3	19	55.9	19	45.2	31	52.5	2	9.1	1	100.0
1,200～1,399円	19	10.1	2	6.7	1	2.9	8	19.0	5	8.5	3	13.6	-	-
1,400～1,599円	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1,600～1,799円	4	2.1	-	-	-	-	1	2.4	1	1.7	2	9.1	-	-
1,800～1,999円	2	1.1	-	-	1	2.9	-	-	-	-	1	4.5	-	-
2,000円～	15	8.0	-	-	1	2.9	2	4.8	1	1.7	11	50.0	-	-
無回答	2	1.1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9.1	-	-

アルバイトの職種は、「接客業」が115名（61.2%）と多く、次いで「販売業」33名（17.6%）と、上位2業種で全体の約8割を占めている（図3-4）。「医療職」25名（13.3%）、「家庭教師・塾講師」25名（13.3%）は、前回調査とほぼ同じ割合であるが、既に看護師等の免許を取得している大学院生のほとんどは医療職のアルバイトに従事している（表3-6）。

図3-4 授業期間中のアルバイト職種

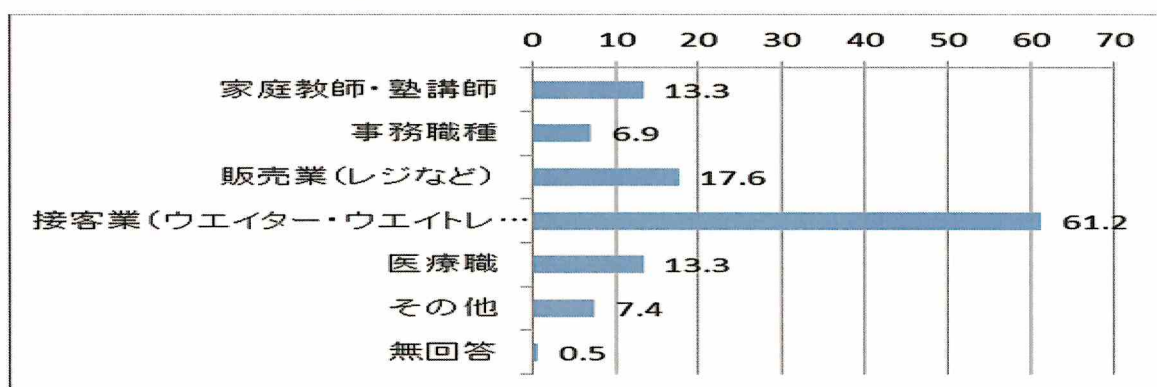


表3-6 授業期間中のアルバイト職種（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	188	100.0	30	100.0	34	100.0	42	100.0	59	100.0	22	100.0	1	100.0
家庭教師・塾講師	25	13.3	6	20.0	5	14.7	4	9.5	7	11.9	3	13.6	-	-
事務職種	13	6.9	4	13.3	1	2.9	3	7.1	3	5.1	2	9.1	-	-
販売業(レジなど)	33	17.6	8	26.7	5	14.7	10	23.8	10	16.9	-	-	-	-
接客業(ウェ이터・ウエイ イトレスなど)	115	61.2	19	63.3	25	73.5	26	61.9	42	71.2	2	9.1	1	100.0
医療職	25	13.3	1	3.3	1	2.9	4	9.5	5	8.5	14	63.6	-	-
その他	14	7.4	2	6.7	2	5.9	4	9.5	3	5.1	3	13.6	-	-

4) 長期休暇中のアルバイト実施状況 (質問5のG)

長期休暇中アルバイトに従事した学生数は127名であった。表3-7に示したように、「接客業」91名(71.7%)、「販売業」30名(23.6%)の順に多くなっている。また、「販売業」については、表3-6に挙げた「授業期間中のアルバイト職種」とほぼ同数となっているが、これは、授業期間から継続して行っている学生が多いためであると考えられる。

表3-7 長期休暇中のアルバイト状況 (職種/学年別: 複数回答)

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	127	100.0	21	100.0	22	100.0	31	100.0	46	100.0	7	100.0	0	0.0
家庭教師・塾講師	15	11.8	4	19.0	1	4.5	3	9.7	7	15.2	-	-	-	-
事務職種	2	1.6	-	-	-	-	-	-	2	4.3	-	-	-	-
販売業 (レジなど)	30	23.6	6	28.6	5	22.7	7	22.6	12	26.1	-	-	-	-
接客業 (ウェイター・ ウエイトレスなど)	91	71.7	13	61.9	18	81.8	24	77.4	35	76.1	1	14.3	-	-
医療職	11	8.7	1	4.8	-	-	1	3.2	2	4.3	7	100.0	-	-
その他	14	11.0	3	14.3	2	9.1	4	12.9	5	10.9	-	-	-	-

4. 課外活動について

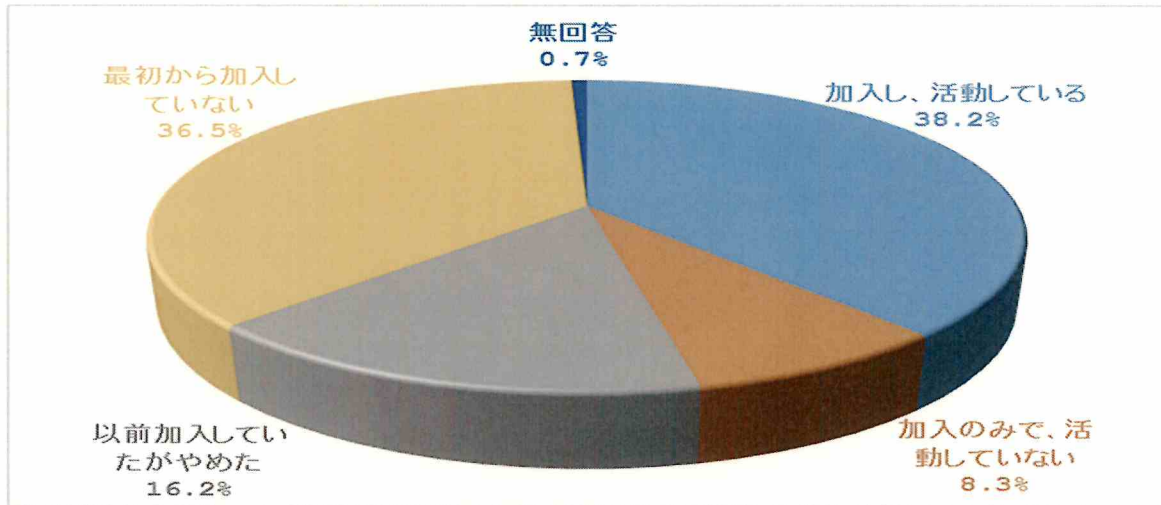
1) 加入している学内・学外のクラブ及び同好会（質問6）

「加入し活動している」156名（38.2%）が最も多く、前回調査同様だった。また「最初から加入していない」149名（36.5%）も同様の傾向を示している（表4-1）。そのような中、4年生は、「以前は加入していたがやめた」者と「加入し活動している」者に大きな開きがないことから、最終学年になり卒業研究や実習等で多忙のため、活動が継続しにくくなったことも考えられる。

表4-1 加盟している学内・学外のクラブ及び同好会（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
加入し、活動している	156	38.2	46	71.9	35	57.4	33	38.8	37	31.1	5	6.7	-	-
加入のみで、活動していない	34	8.3	7	10.9	7	11.5	7	8.2	12	10.1	1	1.3	-	-
以前加入していたがやめた	66	16.2	1	1.6	7	11.5	18	21.2	38	31.9	2	2.7	-	-
最初から加入していない	149	36.5	10	15.6	12	19.7	27	31.8	32	26.9	66	88.0	2	50.0
無回答	3	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.3	2	50.0

図4-1 課外活動の参加状況



2) 加入している学内のサークル・同好会（質問6-1のA）

災害救護ボランティアサークルSKV 67名（26.2%）とEFCボランティアサークル55名（21.5%）に加入している割合が3割前後であった（表4-2）。両者ともに国内を中心にボランティアを主とした活動を行っている。また、Hinaharap34名（13.3%）、NACEF16名（6.3%）は、海外を中心にボランティア活動を主として行っている。このように学生のうちからボ

ランティアに関心をもち、それをサークル・同好会活動として取り組んでいる様子が窺える。

表4-2 加入している学内のサークル・同好会

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	256	100.0	54	100.0	49	100.0	58	100.0	87	100.0	8	100.0	0	0.0
総合音楽サークル	18	7.0	2	3.7	4	8.2	6	10.3	6	6.9	-	-	-	-
手話サークル	22	8.6	7	13.0	5	10.2	7	12.1	3	3.4	-	-	-	-
茶道部	4	1.6	2	3.7	1	2.0	1	1.7	-	-	-	-	-	-
NACEF	16	6.3	3	5.6	6	12.2	1	1.7	6	6.9	-	-	-	-
災害救護ボランティア サークルSKV	67	26.2	23	42.6	16	32.7	15	25.9	13	14.9	-	-	-	-
EFCボランティアサークル	55	21.5	17	31.5	14	28.6	11	19.0	13	14.9	-	-	-	-
Hinaharap	34	13.3	6	11.1	10	20.4	6	10.3	12	13.8	-	-	-	-
Cross Ring Circulation (CRC)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
総合運動サークル	14	5.5	2	3.7	4	8.2	2	3.4	6	6.9	-	-	-	-
日赤硬式テニス部	13	5.1	2	3.7	-	-	6	10.3	5	5.7	-	-	-	-
Arrosoir	8	3.1	3	5.6	1	2.0	2	3.4	2	2.3	-	-	-	-
IKAN室内楽アンサンブル部	14	5.5	4	7.4	2	4.1	2	3.4	6	6.9	-	-	-	-
無回答	81	31.6	7	13.0	9	18.4	18	31.0	39	44.8	8	100.0	-	-

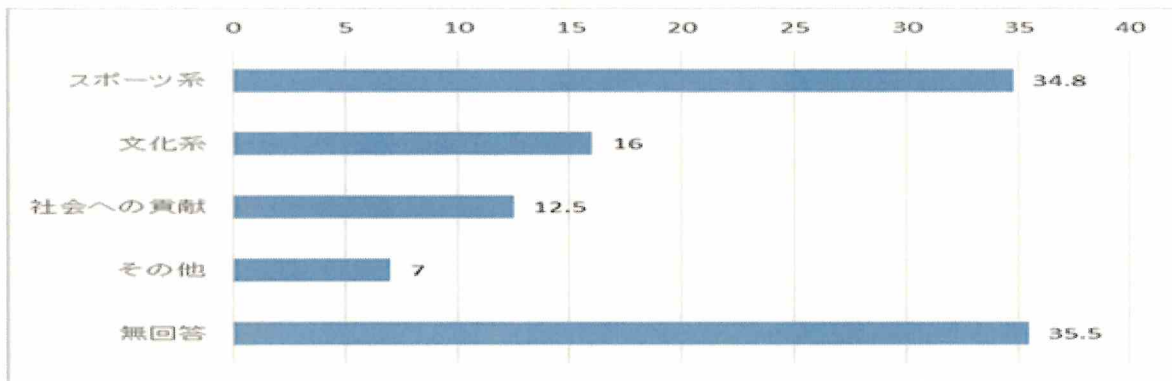
3) 加入経験のある学外のサークル・同好会 (質問6-1のB)

加入経験のある学外のサークル・同好会は、スポーツ系が半数以上であり89名(34.8%)、文化系41名(16.0%)、社会への貢献32名(12.5%)であった。

表4-3 加入経験のある学外のサークル・同好会 (学年別)

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	256	100.0	54	100.0	49	100.0	58	100.0	87	100.0	8	100.0	0	0.0
スポーツ系	89	34.8	14	25.9	12	24.5	22	37.9	40	46.0	1	12.5	-	-
文化系	41	16.0	7	13.0	7	14.3	9	15.5	16	18.4	2	25.0	-	-
社会への貢献	32	12.5	5	9.3	10	20.4	5	8.6	10	11.5	2	25.0	-	-
その他	18	7.0	2	3.7	6	12.2	4	6.9	4	4.6	2	25.0	-	-
無回答	91	35.5	27	50.0	19	38.8	23	39.7	21	24.1	1	12.5	-	-

図4-2 加入経験のある学外のサークル・同好会



4) 課外活動への参加理由 (質問6-1のC, D)

課外活動に参加している者のうち、「興味・関心があったから」191名 (74.6%) が最も多く、次いで「楽しむため」136名 (53.1%) ・「友人を得るため」134名 (52.3%) とほぼ同数で、「知識・教養等を身につけるため」91名 (35.5%) 、「人格形成のため」30名 (11.7%) となっている (表4-4) 。これは前回調査と比べ「楽しむため」と「健康増進のため」が減少傾向である。

表4-4 課外活動への参加理由 (学年別：複数回答)

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	256	100.0	54	100.0	49	100.0	58	100.0	87	100.0	8	100.0	0	0.0
友人を得るため	134	52.3	33	61.1	19	38.8	35	60.3	45	51.7	2	25.0	-	-
知識・教養・技術等を 身につけるため	91	35.5	21	38.9	23	46.9	16	27.6	27	31.0	4	50.0	-	-
人格形成のため	30	11.7	7	13.0	5	10.2	5	8.6	12	13.8	1	12.5	-	-
興味・関心があった から	191	74.6	38	70.4	40	81.6	39	67.2	69	79.3	5	62.5	-	-
楽しむため	136	53.1	26	48.1	25	51.0	29	50.0	51	58.6	5	62.5	-	-
健康増進のため	24	9.4	6	11.1	5	10.2	5	8.6	7	8.0	1	12.5	-	-
その他	3	1.2	1	1.9	-	-	2	3.4	-	-	-	-	-	-
無回答	14	5.5	4	7.4	4	8.2	3	5.2	3	3.4	-	-	-	-

図4-2 課外活動への参加理由

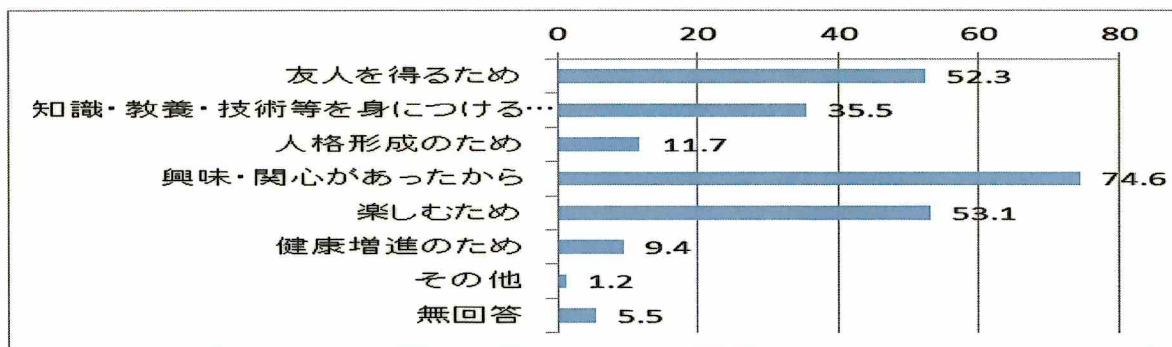


表4-5 週平均の課外活動時間（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	256	100.0	54	100.0	49	100.0	58	100.0	87	100.0	8	100.0	0	0.0
1時間未満	61	23.8	16	29.6	10	20.4	13	22.4	20	23.0	2	25.0	-	-
1時間～2時間未満	36	14.1	11	20.4	5	10.2	11	19.0	8	9.2	1	12.5	-	-
2時間～3時間未満	39	15.2	8	14.8	7	14.3	10	17.2	14	16.1	-	-	-	-
3時間～4時間未満	18	7.0	4	7.4	3	6.1	5	8.6	6	6.9	-	-	-	-
4時間～5時間未満	17	6.6	-	-	3	6.1	1	1.7	13	14.9	-	-	-	-
5時間～6時間未満	21	8.2	3	5.6	8	16.3	4	6.9	6	6.9	-	-	-	-
6時間以上	34	13.3	7	13.0	4	8.2	9	15.5	13	14.9	1	12.5	-	-
無回答	30	11.7	5	9.3	9	18.4	5	8.6	7	8.0	4	50.0	-	-

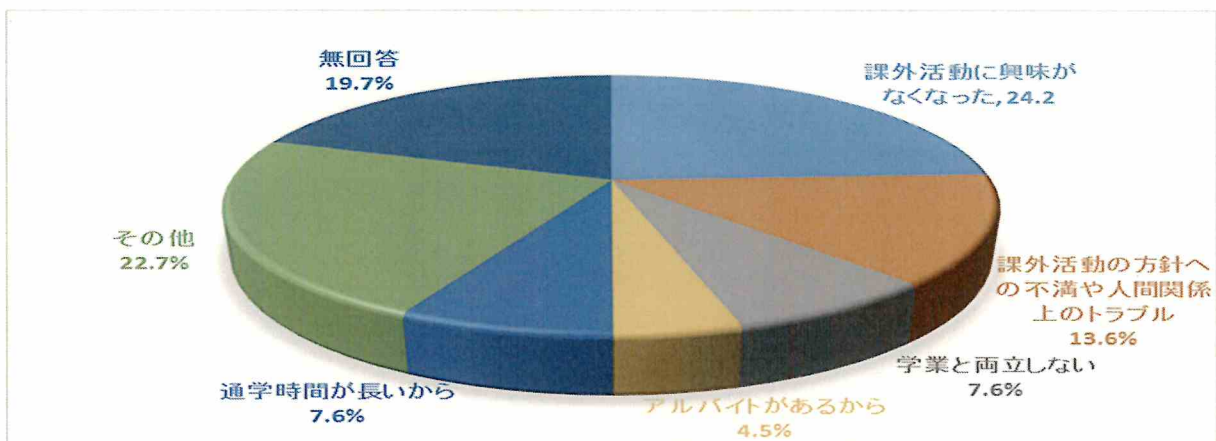
5) 課外活動における中途退会の理由（質問6-2）

表4-6に挙げたように、総数としても66名とさほど多くはないが、理由としては「課外活動に興味がなくなった」「課外活動の方針への不満や人間関係上のトラブル」が主な理由としてあげられたが、その他や無回答が多く選択項目を検討する必要があると言える。

表4-6 課外活動における中途退会の理由（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	66	100.0	1	100.0	7	100.0	18	100.0	38	100.0	2	100.0	0	0.0
課外活動に興味 がなくなった	16	24.2	1	100.0	-	-	8	44.4	7	18.4	-	-	-	-
課外活動の方針 への不満や人間 関係上の トラブル	9	13.6	-	-	1	14.3	-	-	8	21.1	-	-	-	-
学業と両立しない	5	7.6	-	-	1	14.3	-	-	3	7.9	1	50.0	-	-
アルバイトがある から	3	4.5	-	-	-	-	1	5.6	2	5.3	-	-	-	-
通学時間が長い から	5	7.6	-	-	2	28.6	1	5.6	2	5.3	-	-	-	-
その他	15	22.7	-	-	1	14.3	4	22.2	9	23.7	1	50.0	-	-
無回答	13	19.7	-	-	2	28.6	4	22.2	7	18.4	-	-	-	-

図4-3 課外活動における中途退会の理由



6) 課外活動に最初から加入しない理由 (質問6-3)

表4-7 課外活動に参加したことの無い理由

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	149	100.0	10	100.0	12	100.0	27	100.0	32	100.0	66	100.0	2	100.0
課外活動に興味がない	35	23.5	3	30.0	4	33.3	10	37.0	5	15.6	13	19.7	-	-
興味ある課外活動がない	24	16.1	3	30.0	3	25.0	4	14.8	10	31.3	4	6.1	-	-
学業と両立しない	25	16.8	-	-	-	-	1	3.7	-	-	24	36.4	-	-
アルバイトがあるから	9	6.0	1	10.0	1	8.3	1	3.7	6	18.8	-	-	-	-
通学時間が長いから	16	10.7	3	30.0	-	-	4	14.8	4	12.5	5	7.6	-	-
その他	19	12.8	-	-	1	8.3	2	7.4	3	9.4	13	19.7	-	-
無回答	21	14.1	-	-	3	25.0	5	18.5	4	12.5	7	10.6	2	100.0

図4-4 課外活動に参加したことの無い理由

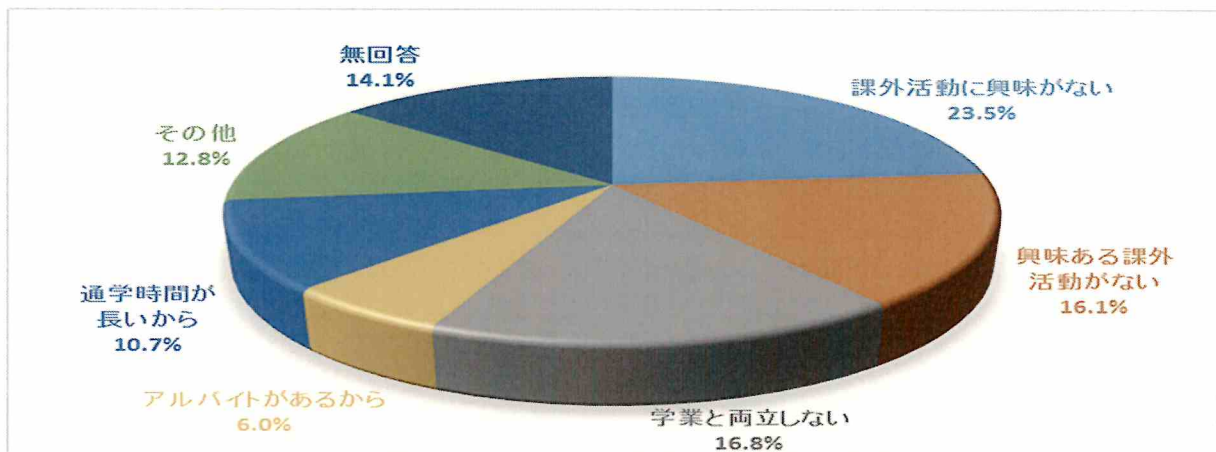
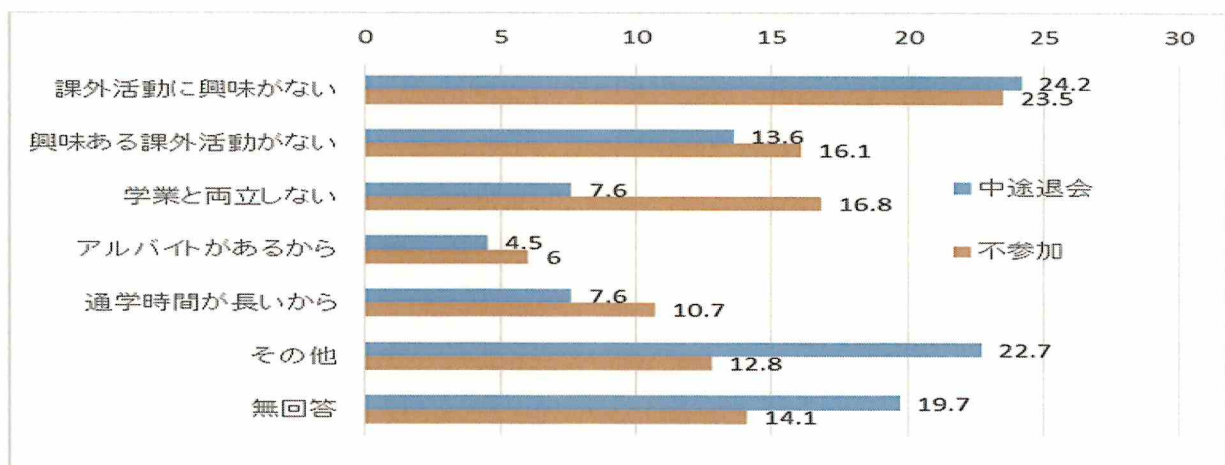


図4-5 課外活動における中途退会理由と不参加理由の比較



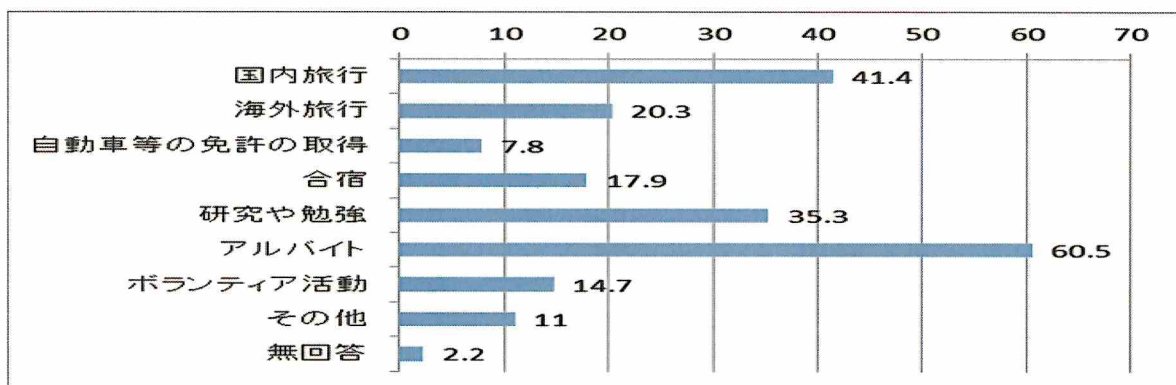
7) 課外教育

(1)夏期休暇の主な行動 (質問6-4のA)

表4-7 夏期休暇中の主な行動 (学年別)

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
国内旅行	169	41.4	22	34.4	28	45.9	43	50.6	63	52.9	11	14.7	2	50.0
海外旅行	83	20.3	6	9.4	9	14.8	27	31.8	38	31.9	3	4.0	-	-
自動車等の免許の 取得	32	7.8	11	17.2	4	6.6	7	8.2	10	8.4	-	-	-	-
合宿	73	17.9	18	28.1	11	18.0	18	21.2	26	21.8	-	-	-	-
研究や勉強	144	35.3	11	17.2	3	4.9	14	16.5	57	47.9	58	77.3	1	25.0
アルバイト	247	60.5	38	59.4	39	63.9	68	80.0	88	73.9	14	18.7	-	-
ボランティア活動	60	14.7	14	21.9	17	27.9	12	14.1	14	11.8	3	4.0	-	-
その他	45	11.0	10	15.6	12	19.7	5	5.9	8	6.7	10	13.3	-	-
無回答	9	2.2	1	1.6	-	-	1	1.2	2	1.7	3	4.0	2	50.0

図4-6 夏期休暇中の主な行動



(2)課外教育の経験の有無と受講講座 (質問6-4のB, B-1)

表4-8に示したように、大学入学後、技術や資格取得のための学外活動の有無を見ると、総数では「ある」と回答した学生が63名 (15.4%) となっており、2000年51名 (23.1%)、2006年 (17.8%)、2011年42名 (12.1%) 減少傾向であったが、若干ではあるが上昇したといえる。受講した講座については表4-9のとおり、「語学」25名 (39.7%) が最も多く、次いで「各種資格の予備校」15名 (23.8%) となった。「語学」は前回の調査31.7%であったが今回は39.7%と上昇しており海外に興味がある学生が増えたといえる。これは表4-10「海外研修」が最も多いことにも表れているといえる。

表4-8 学外学校への通学経験（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
ある	63	15.4	6	9.4	4	6.6	20	23.5	20	16.8	13	17.3	-	-
ない	333	81.6	56	87.5	57	93.4	63	74.1	97	81.5	58	77.3	2	50.0
無回答	12	2.9	2	3.1	-	-	2	2.4	2	1.7	4	5.3	2	50.0

表4-9 受講した講座（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	63	100.0	6	100.0	4	100.0	20	100.0	20	100.0	13	100.0	0	0.0
語学	25	39.7	3	50.0	-	-	5	25.0	9	45.0	8	61.5	-	-
スポーツ・エアロビクス・ダンス等	4	6.3	-	-	-	-	1	5.0	1	5.0	2	15.4	-	-
各種資格の予備校	15	23.8	-	-	1	25.0	8	40.0	5	25.0	1	7.7	-	-
茶道・華道	2	3.2	-	-	-	-	1	5.0	-	-	1	7.7	-	-
料理	4	6.3	-	-	1	25.0	1	5.0	1	5.0	1	7.7	-	-
音楽	1	1.6	-	-	-	-	1	5.0	-	-	-	-	-	-
その他	19	30.2	3	50.0	2	50.0	6	30.0	5	25.0	3	23.1	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

3) 課外教育プログラムへの希望（質問6-4のC）

最も希望の多い大学主催の課外教育プログラム（表4-10）は、「海外研修」121名（29.7%）と2000年以降継続して最も多い。次いで「教養講座等の講演会」が103名（25.2%）で前回より9.0%増加、救急法の講習会85名（20.8%）で前回より8.0%増、スポーツ講習会等においても4.0%増加している。学生から大学主催の課外教育プログラムへの要望が高まっているものと考えられる。

表4-10 希望する大学主催の課外教育プログラム

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
教養講座等の講演会	103	25.2	5	7.8	9	14.8	21	24.7	30	25.2	37	49.3	1	25.0
スポーツ講習会等	34	8.3	9	14.1	11	18.0	4	4.7	6	5.0	4	5.3	-	-
海外研修	121	29.7	12	18.8	21	34.4	29	34.1	42	35.3	17	22.7	-	-
救急法の講習会	85	20.8	30	46.9	12	19.7	16	18.8	20	16.8	6	8.0	1	25.0
その他	11	2.7	-	-	-	-	4	4.7	1	0.8	6	8.0	-	-
無回答	54	13.2	8	12.5	8	13.1	11	12.9	20	16.8	5	6.7	2	50.0

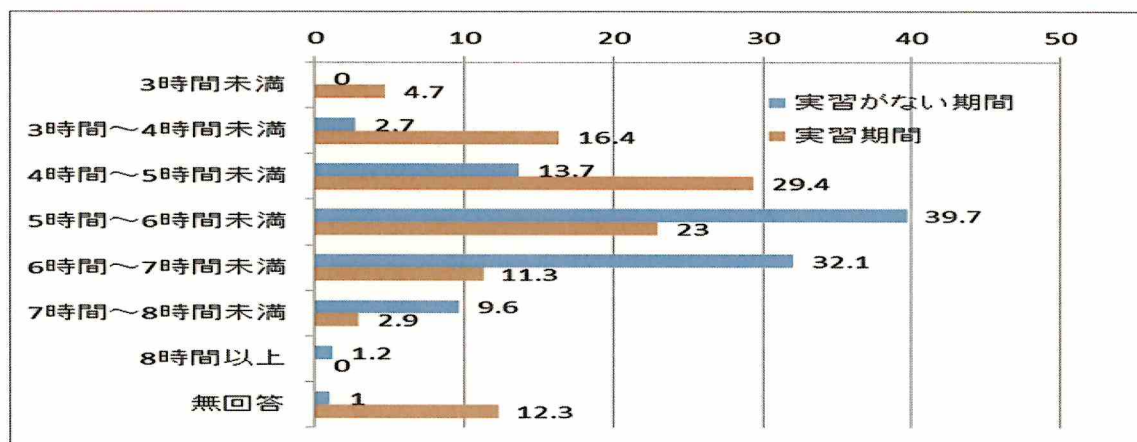
5. 生活時間について

1) 睡眠時間（質問7のA）

実習が睡眠時間にどの程度影響を及ぼしているのかを比較するために、実習の有無に分けて質問をおこなった（図5-1）。まず、実習がない期間の場合、1日の睡眠時間で最も多いのは「5～6時間未満」162名（39.7%）、次いで「6～7時間未満」131名（32.1%）、「4～5時間未満」56名（13.7%）、「7～8時間未満」39名（9.6%）、「8時間以上」5名（1.2%）、「3～4時間未満」11名（2.7%）であった。前回調査では、睡眠時間6時間未満の学生の割合は62.8%であり、今回の調査結果では、56.1%と減少していたことから、全体として睡眠時間を多くとる学生が増加傾向にある。

次に、実習期間中の場合をみると、最も多いのが「4～5時間未満」120名（29.4%）、次いで「5～6時間未満」94名（23.0%）、「3～4時間未満」67名（16.4%）となっており、「3時間未満」も19名（4.7%）とかなりの人数にのぼっていた。全体として73.5%の学生が6時間未満で、前回調査時（88.5%）より減少していた。実習のない期間での睡眠時間6時間未満の学生の割合は56.1%と実習のある時期と比べると低く、実習の影響がかなり大きいと思われる。この傾向は前々回、前回の調査結果と同様であった。

図5-1 睡眠時間の比較（実習期間の有無）



次に、実習のない期間の睡眠時間を学年別に比較すると（表5-1）、睡眠時間が6時間未満の学生の割合が多い学年は、1年生（75.0%）、2年生（63.9%）、大学院生（60.1%）であり、3年生（50.6%）、4年生（44.5%）であった。今回の調査結果で学部生においては、学年が上になると睡眠時間が多くなる傾向を示しており、このような傾向は前々回の調査結果でも認められた。

さらに実習期間中の睡眠時間を学年別に比較してみると（表5-2）、「3～4時間未満」が多い学年は3年生20名（23.5%）、大学院生14名（18.7%）であり、「5～6時間未満」が多い学年は2年生17名（27.9%）、4年生31名（26.1%）であった。3年生の睡眠時間が少ない傾向は、本格的な実習の負担が大きいことがうかがえる。また、4年生の睡眠時間が少ない理由として、

実習内容の深まりに加え卒業研究や国家試験の準備など課題が増えていることなどが影響していると思われる。

表5-1 実習がない期間の睡眠時間

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
3時間未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3時間～4時間未満	11	2.7	8	12.5	1	1.6	-	-	-	-	2	2.7	-	-
4時間～5時間未満	56	13.7	8	12.5	8	13.1	8	9.4	14	11.8	17	22.7	1	25.0
5時間～6時間未満	162	39.7	32	50.0	30	49.2	35	41.2	39	32.8	26	34.7	-	-
6時間～7時間未満	131	32.1	13	20.3	17	27.9	33	38.8	48	40.3	19	25.3	1	25.0
7時間～8時間未満	39	9.6	2	3.1	5	8.2	8	9.4	14	11.8	10	13.3	-	-
8時間以上	5	1.2	-	-	-	-	1	1.2	4	3.4	-	-	-	-
無回答	4	1.0	1	1.6	-	-	-	-	-	-	1	1.3	2	50.0

表5-2 実習期間中の睡眠時間

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
3時間未満	19	4.7	1	1.6	4	6.6	3	3.5	8	6.7	3	4.0	-	-
3時間～4時間未満	67	16.4	5	7.8	9	14.8	20	23.5	19	16.0	14	18.7	-	-
4時間～5時間未満	120	29.4	8	12.5	14	23.0	31	36.5	45	37.8	21	28.0	1	25.0
5時間～6時間未満	94	23.0	13	20.3	17	27.9	20	23.5	31	26.1	12	16.0	1	25.0
6時間～7時間未満	46	11.3	4	6.3	13	21.3	4	4.7	13	10.9	12	16.0	-	-
7時間～8時間未満	12	2.9	2	3.1	4	6.6	2	2.4	2	1.7	2	2.7	-	-
8時間以上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	50	12.3	31	48.4	-	-	5	5.9	1	0.8	11	14.7	2	50.0

2) 学習時間 (質問7のB)

大学における正規の学習時間以外での、1日の自己学習時間について、専門科目については、実習の有無に分けて、専門基礎科目については実習のない期間について質問した。

専門科目の場合、実習のない期間で最も多いのは「30分未満」182名(44.6%)、次いで「30分～1時間未満」81名(19.9%)、「1時間～2時間未満」74名(18.1%)で、学習時間が増えるほど回答者数が減る傾向を示している(図5-2)。学年別に比較してみると(表5-3)、学部生で最も多いのが「30分未満」で、2年生は77.0%の学生が「30分未満」と回答していた。

「3時間以上」と回答した学生は40名(9.8%)で、そのうち36名は大学院生であった。

図5-2 専門科目の学習時間（実習期間の有無）

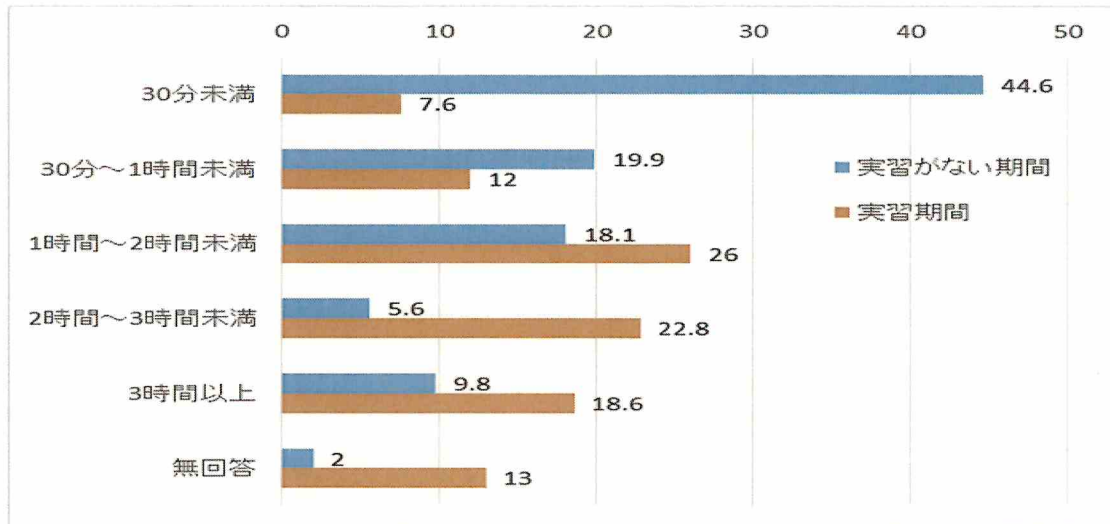


表5-3 実習がない期間の学習時間（専門科目）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
30分未満	182	44.6	35	54.7	47	77.0	47	55.3	50	42.0	3	4.0	-	-
30分～1時間未満	81	19.9	12	18.8	9	14.8	24	28.2	31	26.1	4	5.3	1	25.0
1時間～2時間未満	74	18.1	12	18.8	4	6.6	12	14.1	27	22.7	19	25.3	-	-
2時間～3時間未満	23	5.6	3	4.7	-	-	2	2.4	9	7.6	9	12.0	-	-
3時間以上	40	9.8	-	-	1	1.6	-	-	2	1.7	36	48.0	1	25.0
無回答	8	2.0	2	3.1	-	-	-	-	-	-	4	5.3	2	50.0

専門科目の学習時間について、実習期間中で最も多いのは「1～2時間未満」106名(26.0%)、次いで「2～3時間未満」93名(22.8%)、「3時間以上」76名(18.6%)、「30分～1時間未満」49名(12.0%)であった。「30分未満」と回答した学生は31名(7.6%)であった。学年別に比較してみると(表5-4)、学年が進むにつれ、学習時間が長くなる傾向がみられた。前回調査では、3年生に学習時間の長い学生が最も多い傾向にあったが、今回は4年生に学習時間の長い学生が最も多い傾向がみられた。これは、カリキュラムの変更によって、3年次で実施されていた3週間の実習が4年次に移行したためと考えられる。

基礎教養科目の場合、実習のない期間で最も多いのは「30分未満」230名(56.4%)、次いで「30分～1時間未満」79名(19.4%)、「1時間～2時間未満」61名(15.0%)で、学習時間が増えるほど回答者数が減る傾向を示している(表5-5)。学年別に比較してみると、学部生で最も多いのが「30分未満」で、2年生・3年生+編入3年生は約70%の学生が「30分未満」と回答していた。「3時間以上」と回答した学生は全体でわずか6名であったが、そのうち5名は大学院生であった。

表5-4 実習期間中の学習時間（専門科目）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
30分未満	31	7.6	13	20.3	4	6.6	4	4.7	7	5.9	3	4.0	-	-
30分～1時間未満	49	12.0	11	17.2	11	18.0	10	11.8	14	11.8	3	4.0	-	-
1時間～2時間未満	106	26.0	5	7.8	24	39.3	16	18.8	38	31.9	22	29.3	1	25.0
2時間～3時間未満	93	22.8	2	3.1	17	27.9	26	30.6	34	28.6	14	18.7	-	-
3時間以上	76	18.6	1	1.6	5	8.2	24	28.2	26	21.8	19	25.3	1	25.0
無回答	53	13.0	32	50.0	-	-	5	5.9	-	-	14	18.7	2	50.0

表5-5 実習がない期間の学習時間（基礎教養科目）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
30分未満	230	56.4	38	59.4	44	72.1	61	71.8	64	53.8	22	29.3	1	25.0
30分～1時間未満	79	19.4	13	20.3	14	23.0	13	15.3	29	24.4	10	13.3	-	-
1時間～2時間未満	61	15.0	10	15.6	3	4.9	10	11.8	20	16.8	17	22.7	1	25.0
2時間～3時間未満	11	2.7	1	1.6	-	-	1	1.2	4	3.4	5	6.7	-	-
3時間以上	6	1.5	-	-	-	-	-	-	1	0.8	5	6.7	-	-
無回答	21	5.1	2	3.1	-	-	-	-	1	0.8	16	21.3	2	50.0

今回、「30分未満」「30分～1時間未満」と回答した人の理由について、専門科目・基礎教養科目別に調査したところ、回答の多い割合の順は、専門科目・基礎教養科目で同じであった。最も多いのは「テスト前にすればよいから」（専門科目46.0%・基礎教養科目39.8%）、次いで「やる気がないから」（専門科目33.5%・基礎教養科目30.1%）、「アルバイトで忙しいから」（専門科目22.4%・基礎教養科目19.1%）、「勉強の仕方がわからないから」（専門科目14.1%・基礎教養科目12.0%）であった（図5-3）。これらの理由や全体的に学習時間の少ない学生の割合が多いことから、学習習慣が身につけていない学部生が多いことが伺える。

前回調査までは、学習時間について専門科目・基礎教養科目別に調査していなかったため、比較は難しいが、「30分未満」「30分～1時間未満」と回答した割合は、今回の調査結果の方が多くなっており（前回：実習のない時期59.3%、実習期間中14.0%）、学部生では、全体的に学習時間の少ない学生が増加している印象がある。大学院生では、全体的に学習時間は多いが、実習がない期間で「30分未満」「30～1時間未満」「1～2時間未満」と回答した学生が49名おり、前回調査の4倍となっていた。大学院に進学しても、何らかの理由により、学習のために時間を充てられていない者が増加していることが明らかになった。

図5-3 「30分未満」「30分～1時間未満」と回答した人の理由（専門科目と基礎教養科目の比較）

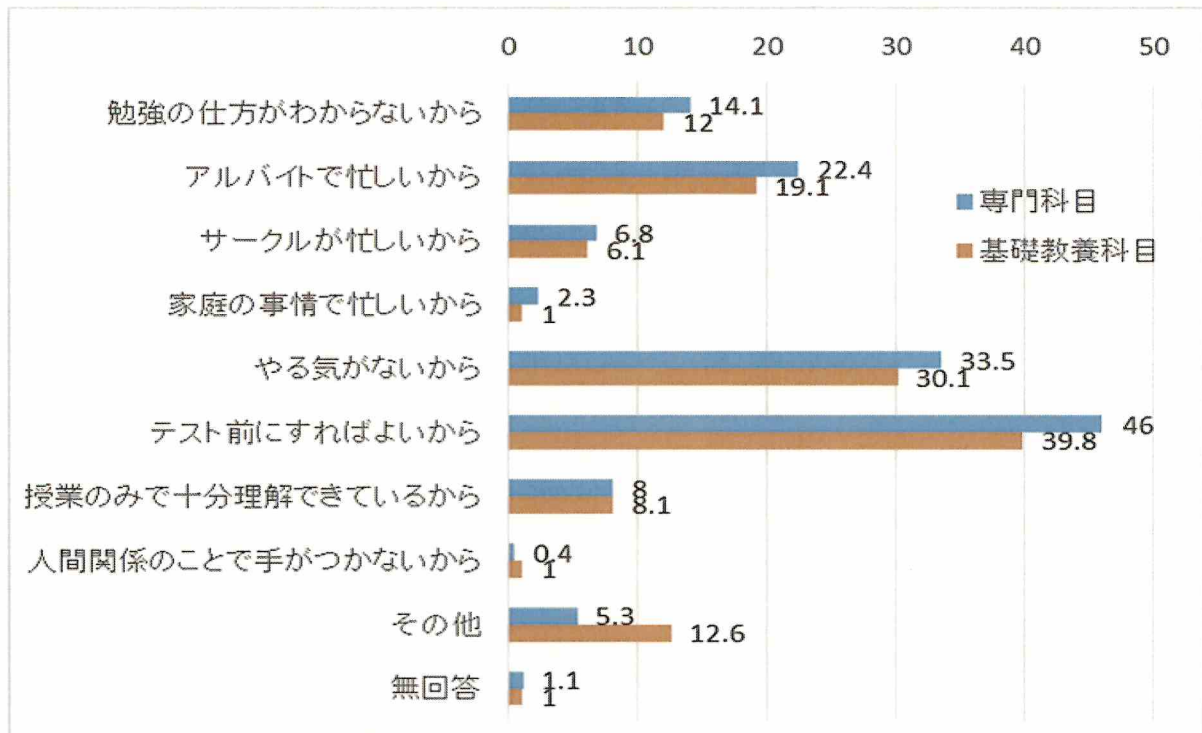


表5-6 実習期間中の学習時間

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
30分未満	31	7.6	13	20.3	4	6.6	4	4.7	7	5.9	3	4.0	-	-
30分～1時間未満	49	12.0	11	17.2	11	18.0	10	11.8	14	11.8	3	4.0	-	-
1時間～2時間未満	106	26.0	5	7.8	24	39.3	16	18.8	38	31.9	22	29.3	1	25.0
2時間～3時間未満	93	22.8	2	3.1	17	27.9	26	30.6	34	28.6	14	18.7	-	-
3時間以上	76	18.6	1	1.6	5	8.2	24	28.2	26	21.8	19	25.3	1	25.0
無回答	53	13.0	32	50.0	-	-	5	5.9	-	-	14	18.7	2	50.0

3) 自由時間（質問7のC）

学生がテレビや音楽、電話等で過ごす自由時間（表5-7）について、最も多いのは「1～2時間未満」160名(39.2%)、次いで「2～3時間未満」100名(24.5%)、「1時間未満」71名(17.4%)の順であった。今回、「1～2時間未満」と回答した学生の割合は、前々回39.9%、前回40.5%と同程度であった。

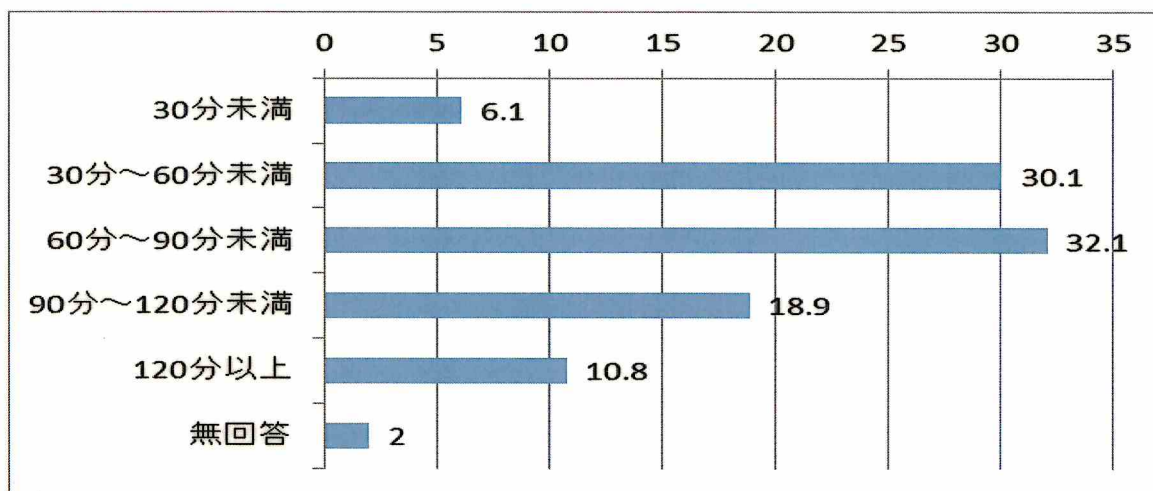
表5-7 自由時間（TV・音楽・電話等）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
1時間未満	71	17.4	10	15.6	12	19.7	8	9.4	16	13.4	25	33.3	-	-
1時間～2時間未満	160	39.2	28	43.8	22	36.1	30	35.3	50	42.0	29	38.7	1	25.0
2時間～3時間未満	100	24.5	16	25.0	13	21.3	28	32.9	29	24.4	13	17.3	1	25.0
3時間～4時間未満	42	10.3	4	6.3	6	9.8	10	11.8	18	15.1	4	5.3	-	-
4時間以上	26	6.4	4	6.3	8	13.1	8	9.4	6	5.0	-	-	-	-
無回答	9	2.2	2	3.1	-	-	1	1.2	-	-	4	5.3	2	50.0

4) 通学時間（質問7のD）

学生の通学時間（片道）で最も多いのは「60～90分未満」（32.1%）で、次いで「30～60分未満」（30.1%）、「90～120分未満」（18.9%）、「120分以上」（10.8%）の順であった（図5-4）。前回調査では「30～60分未満」（28.9%）、「60～90分未満」（27.9%）、「90～120分未満」（20.4%）、「120分以上」（9.2%）であり、全体的に通学時間が延長している印象がある。

図5-4 通学時間（片道）



6. 健康状態について

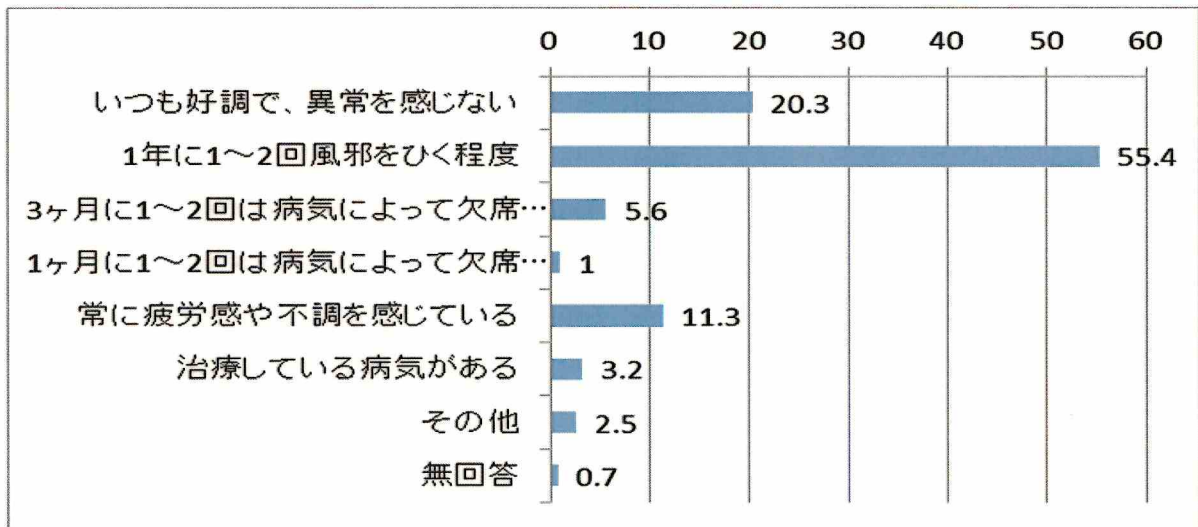
1) 身体面の健康 (質問8)

日頃の健康状態の結果は、図6-1に示した。「いつも好調で、異常を感じない」と回答した学生は83名(20.3%)、「年に1~2回風邪を引く程度」は、226名(55.4%)であった。

前回の調査結果は「いつも好調で、異常を感じない」(23.1%)、「年に1~2回風邪を引く程度」(56.3%)で、この2項目を合わせて比較的健康状態が良好と捉えると309名(75.7%)で、前回の調査結果79.4%に比べると健康状態が良好な学生の割合がわずかに減少した。

「3ヶ月に1~2回は病気によって欠席することがある」と回答した学生は23名(5.6%)で、「1ヶ月に1~2回は病気によって欠席することがある」は4名(1.0%)、「常に疲労感や不調を感じている」46名(11.3%)、「治療している病気がある」13名(3.2%)であった。前回の調査結果は、「常に疲労感や不調を感じている」(10.0%)、「治療している病気がある」(2.6%)であり、今回の調査結果と比べると健康状態の芳しくない学生の割合が微増していた。

図6-1 健康状態



学年別の健康状態は、表6-1に示した。すべての学年で最も回答が多いものは、「年に1~2回風邪を引く程度」であった。前回、前々回の調査では、1、3年生に比して、2、4年生は疲労や健康状態の不調を訴えているものの割合が多い傾向にあったが、今回は2年生が「いつも好調で、異常を感じない」と回答した割合が最も少ないという結果を除き、目立った違いは認められなかった。大学院生では、看護学専攻の学生が疲労や健康状態の不調を訴えているものの割合が多かった。

表6-1 健康状態（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
いつも好調で、異常を感じない	83	20.3	18	28.1	10	16.4	19	22.4	27	22.7	8	10.7	1	25.0
1年に1～2回風邪をひく程度	226	55.4	29	45.3	39	63.9	50	58.8	69	58.0	37	49.3	2	50.0
3ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある	23	5.6	6	9.4	4	6.6	5	5.9	6	5.0	2	2.7	-	-
1ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある	4	1.0	-	-	2	3.3	-	-	2	1.7	-	-	-	-
常に疲労感や不調を感じている	46	11.3	5	7.8	5	8.2	5	5.9	9	7.6	22	29.3	-	-
治療している病気がある	13	3.2	1	1.6	1	1.6	2	2.4	6	5.0	3	4.0	-	-
その他	10	2.5	3	4.7	-	-	4	4.7	-	-	3	4.0	-	-
無回答	3	0.7	2	3.1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	25.0

2) 食生活について（質問9）

朝食では、「ほとんど毎日食べている」291名（71.3%）、次いで「ときどき食べている」69名（16.9%）、「ほとんど食べていない」45名（11.0%）であった（表6-2）。学部生は全学年で「ほとんど毎日食べる」と回答した学生の割合が8割未満であったが、特に4年生は「ほとんど毎日食べる」と回答した学生の割合が58.0%で他の学年よりも少なかった。

昼食では、379名（92.9%）の学生が「ほとんど毎日食べている」と回答していた。「ときどき食べている」と回答した学生25名（6.1%）は、各学年に少数ずつ存在し、「ほとんど食べていない」と回答した学生はいなかった（表6-3）。

夕食では、372名（91.2%）の学生が「ほとんど毎日食べている」と回答していた。「ときどき食べている」と回答した学生31名（7.6%）の3分の1は4年生であった。「ほとんど食べていない」と回答した学生はいなかった（表6-4）。

表6-2 朝食の摂取頻度（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
ほとんど毎日食べている。	291	71.3	51	79.7	46	75.4	63	74.1	69	58.0	60	80.0	2	50.0
ときどき食べている。	69	16.9	7	10.9	8	13.1	16	18.8	30	25.2	7	9.3	1	25.0
ほとんど食べていない。	45	11.0	5	7.8	6	9.8	6	7.1	20	16.8	8	10.7	-	-
無回答	3	0.7	1	1.6	1	1.6	-	-	-	-	-	-	1	25.0

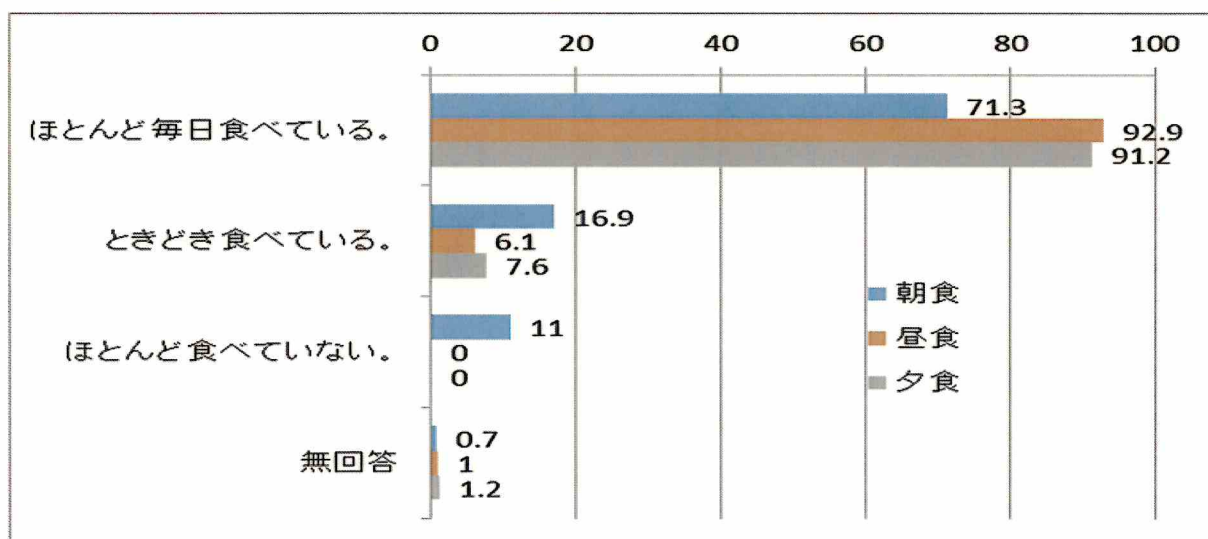
表6-3 昼食の摂取頻度（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
ほとんど毎日食べている。	379	92.9	60	93.8	58	95.1	81	95.3	108	90.8	69	92.0	3	75.0
ときどき食べている。	25	6.1	3	4.7	1	1.6	4	4.7	11	9.2	6	8.0	-	-
ほとんど食べていない。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	4	1.0	1	1.6	2	3.3	-	-	-	-	-	-	1	25.0

表6-4 夕食の摂取頻度（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
ほとんど毎日食べている。	372	91.2	57	89.1	56	91.8	77	90.6	109	91.6	70	93.3	3	75.0
ときどき食べている。	31	7.6	6	9.4	3	4.9	7	8.2	10	8.4	5	6.7	-	-
ほとんど食べていない。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	5	1.2	1	1.6	2	3.3	1	1.2	-	-	-	-	1	25.0

図6-2 3食の摂取状況



3) 精神面の健康

(1)入学から今までの悩みや不安（質問10）

入学してから今までに悩みや不安があったと回答した学生は308名(75.5%)と多いが、前々回（82.1%）、前回（79.6%）より減少していた（表6-5）。

表6-5 入学してから今までの悩みや不安（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
あった(ある)	308	75.5	48	75.0	39	63.9	67	78.8	90	75.6	63	84.0	1	25.0
なかった(ない)	95	23.3	15	23.4	21	34.4	18	21.2	28	23.5	11	14.7	2	50.0
無回答	5	1.2	1	1.6	1	1.6	-	-	1	0.8	1	1.3	1	25.0

悩みや不安内容の内訳(複数回答)をみると、最も多いものは「将来の進路」161人(52.3%)、次いで「看護師・助産師としての適性」153人(49.7%)、「学業に関する能力的問題」132名(42.9%)「友人との人間関係」132名(42.9%)、「経済的な問題」81人(29.9%)、「家族や家庭内のこと」81名(26.3%)、「健康について」78名(25.3%)、「人生観について」72名(23.4%)、「異性問題」64人(20.8%)、「課外活動」33名(10.7%)、「その他」12人(3.9%)の順であった(図6-3)。

図6-3 悩みや不安の内容

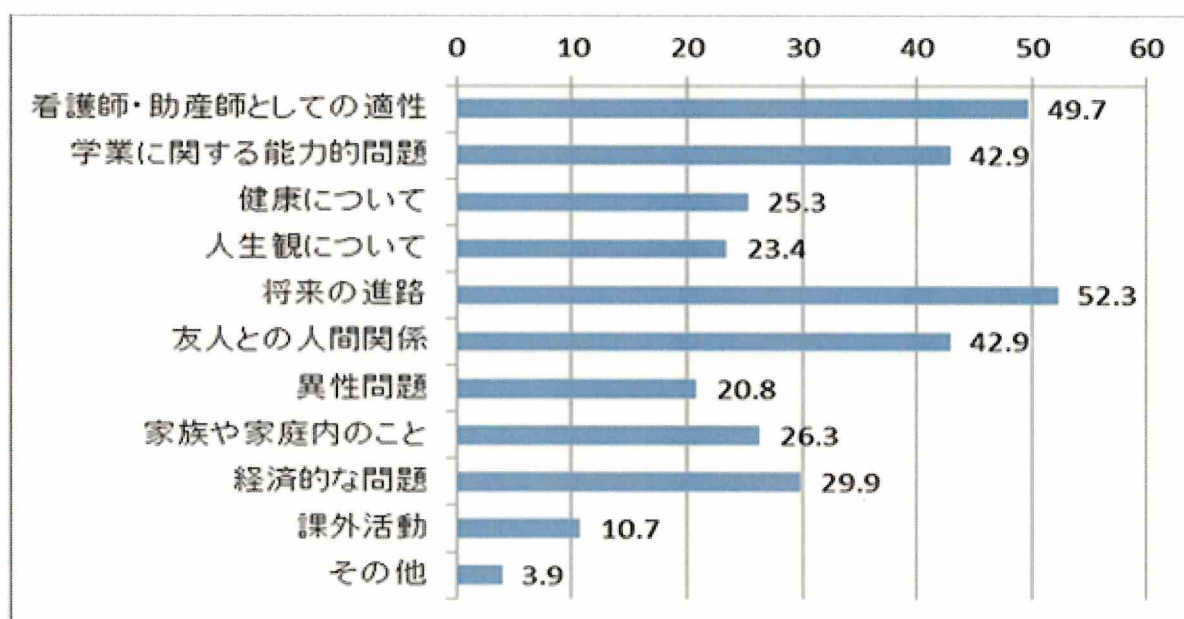


表6-6 悩みや不安の内容（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	308	100.0	48	100.0	39	100.0	67	100.0	90	100.0	63	100.0	4	100.0
看護師・助産師としての適性	153	49.7	30	62.5	21	53.8	38	56.7	51	56.7	12	19.0	1	25.0
学業に関する能力的問題	132	42.9	24	50.0	11	28.2	23	34.3	30	33.3	44	69.8	-	-
健康について	78	25.3	6	12.5	12	30.8	18	26.9	22	24.4	20	31.7	-	-
人生観について	72	23.4	8	16.7	11	28.2	24	35.8	20	22.2	9	14.3	-	-
将来の進路	161	52.3	19	39.6	21	53.8	48	71.6	51	56.7	22	34.9	-	-
友人との人間関係	132	42.9	26	54.2	25	64.1	33	49.3	37	41.1	11	17.5	-	-
異性問題	64	20.8	12	25.0	9	23.1	17	25.4	24	26.7	2	3.2	-	-
家族や家庭内のこと	81	26.3	8	16.7	12	30.8	19	28.4	26	28.9	16	25.4	-	-
経済的な問題	92	29.9	13	27.1	10	25.6	21	31.3	22	24.4	26	41.3	-	-
課外活動	33	10.7	10	20.8	6	15.4	10	14.9	6	6.7	1	1.6	-	-
その他	12	3.9	3	6.3	3	7.7	-	-	1	1.1	5	7.9	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

前回調査で、最も多かったものは「友人との人間関係」(55.3%)、次いで「看護師・助産師としての適性」(54.9%)、「将来の進路」(48.6%)、「学業に関する能力的問題」(44.0%)で、上位4位までは順位の入替わりはあるものの同じ内容がみられた。「経済的な問題」は前回同様、今回の調査結果でも5位であったが、学部生よりも大学院生の割合が多かった。前回調査と比較すると、友人との人間関係よりも看護師・助産師としての適性や将来の進路、学業に関する能力的問題などの不安や悩みが上位になっているが、これらは調査対象者に大学院生が加わっていることが影響していると考えられる。

学年別にみると（表6-6）、「看護師・助産師としての適性」では、1年生が他の学年よりも高い傾向を示していた。一般的には臨地実習が進むにつれて、看護師としての適性について悩む傾向があるが、前回調査でも同様の傾向が認められた。「学業に関する能力的問題」では、大学院生が高い傾向を示していた。助産師という新たな資格取得や研究活動の過程において、学業に関する能力的課題が明確になる時期であると考えられる。「将来の進路」では、3年生、4年生・編入4年生、2年生で高い傾向を示していた。「友人との人間関係」は2年生（64.1%）が最も高く、次いで1年生（54.2%）、3年生（49.3%）であった。2年生で最も高くなることはこれまでの調査ではなかった。

図6-4 悩みや不安の相談相手

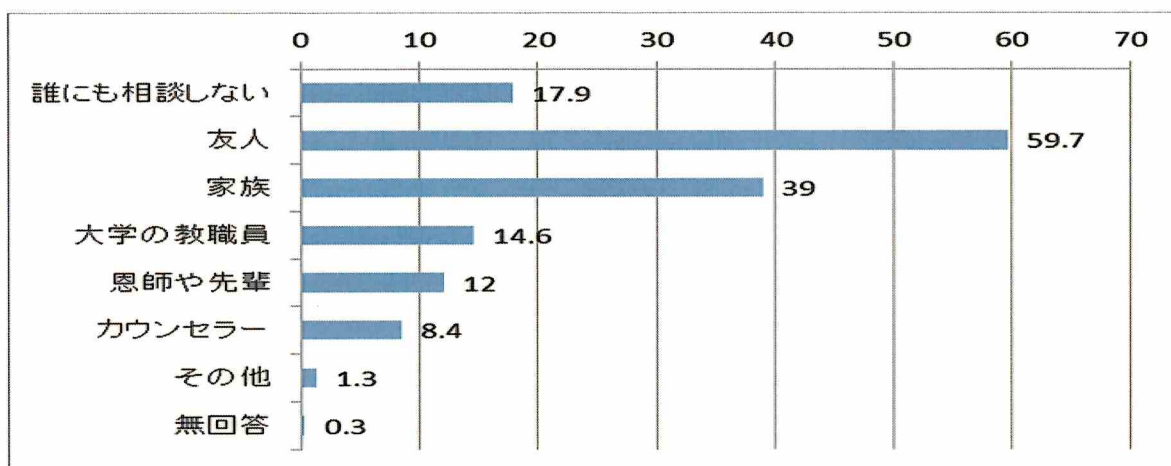


表6-7 悩みや不安の相談相手（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	308	100.0	48	100.0	39	100.0	67	100.0	90	100.0	63	100.0	4	100.0
誰にも相談しない	55	17.9	12	25.0	8	20.5	12	17.9	7	7.8	16	25.4	-	-
友人	184	59.7	26	54.2	24	61.5	41	61.2	63	70.0	30	47.6	-	-
家族	120	39.0	20	41.7	13	33.3	27	40.3	40	44.4	19	30.2	1	25.0
大学の教職員	45	14.6	1	2.1	2	5.1	10	14.9	23	25.6	9	14.3	-	-
恩師や先輩	37	12.0	7	14.6	7	17.9	6	9.0	9	10.0	8	12.7	-	-
カウンセラー	26	8.4	2	4.2	1	2.6	4	6.0	14	15.6	5	7.9	-	-
その他	4	1.3	-	-	-	-	1	1.5	1	1.1	2	3.2	1	25.0
無回答	1	0.3	-	-	-	-	-	-	1	1.1	-	-	-	-

不安や悩みの相談相手として、最も回答の多かったものは「友人」184名(59.7%)、次いで「家族」120名(39.0%)、「大学の教職員」45名(14.6%)、「恩師や先輩」37名(12.0%)、「カウンセラー」26名(8.4%)であった(図6-4)。「誰にも相談しない」と回答した学生は55名(17.9%)もあり、学部1年生、2年生、大学院生の割合が高かった。前回の調査結果では、回答者の割合が多かったものは「友人」60.6%、「家族」17.0%と今回の調査と同じであるが、相談相手が「家族」の占める割合は大幅な増加がみられた。SNSを介して容易に友人と連絡や相談ができる環境が反映していると思われるが、一方では「友人との関係」に悩みや不安を抱えている割合も高く、人間関係が複雑化していると思われる。そのようなことから、身近な家族への相談が増加していたと考えられる。悩みや不安の相談相手を学年別で比較すると、いずれも「友人」が多かった(表6-7)。

(2)大学の学生相談室の利用状況（質問11）

カウンセラーを設置している学生相談室を利用した学生の割合は、「利用した」52名(12.7%)、「利用していない」355名(87.0%)であった（表6-8）。利用した学生の割合は、前回の調査結果（前回12.6%）と同様であった。

学年別（図6-5）では、4年生が学生相談室を利用する割合が最も多かった。学年が進むにつれ、実習などで、実習メンバーや指導教員など他者に相談する経験を重ねること、他学年に比べると授業や実習が少なくなり、相談室を利用する時間的余裕があることなどが理由として考えられる。次いで、「学業に関する能力的問題」に関する悩みを抱える割合の多かった大学院生であった。

図6-5 相談室利用率(学年別)

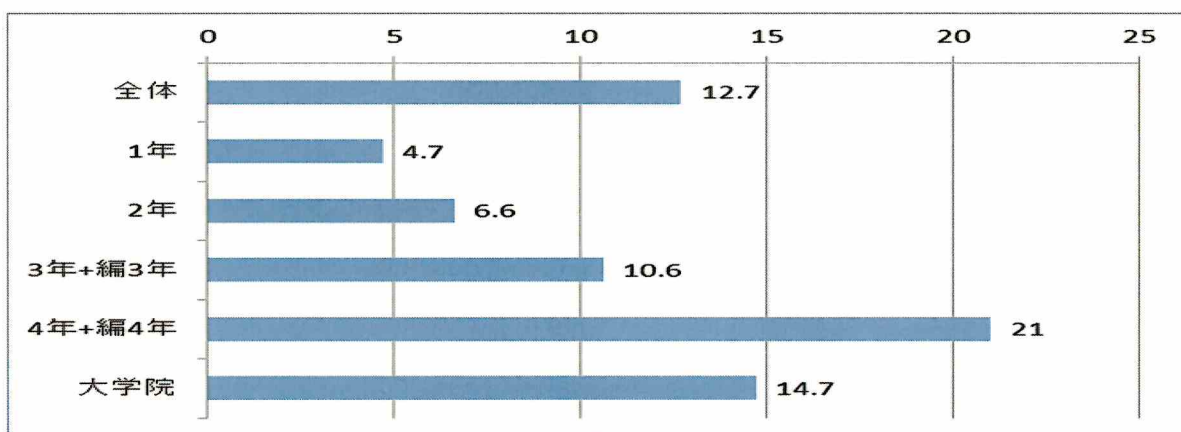


表6-8 学生相談室の利用（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
利用した	52	12.7	3	4.7	4	6.6	9	10.6	25	21.0	11	14.7	-	-
利用していない	355	87.0	61	95.3	57	93.4	76	89.4	94	79.0	64	85.3	3	75.0
無回答	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	25.0

(3)学生相談室の今後の利用意向（質問12）

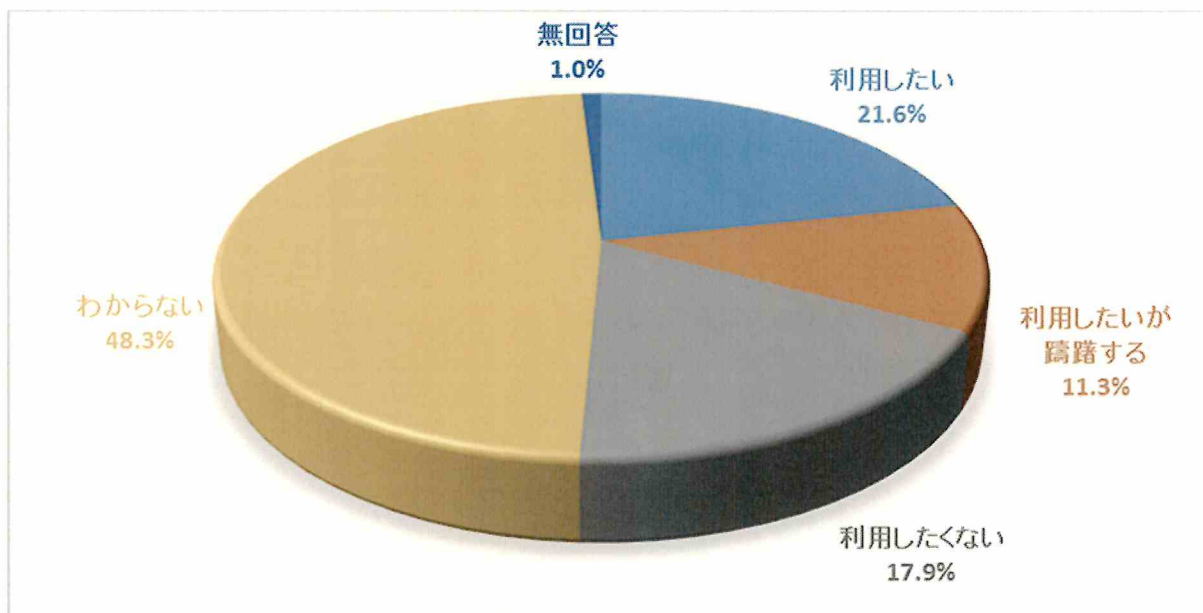
学生相談室の今後の利用の意向を表6-9に示す。「利用したい」88名(21.6%)、「利用したいが躊躇する」46名(11.3%)でこの2項目を併せて利用の意向がみられる者の割合は32.8%であり、「利用したくない」と回答した者は73名(17.9%)であった。また「わからない」と回答した者は197名(48.3%)であった。約33%の学生が学生相談室を利用したいと考えており、前回調査と同程度であった。約75%の学生が学生生活に悩みや不安があると回答して

いたことから、今後も学生相談室の広報活動を継続し、相談室の利用を促していくことが必要である。

表6-9 学生相談室の今後の利用意向（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
利用したい	88	21.6	15	23.4	10	16.4	19	22.4	24	20.2	19	25.3	1	25.0
利用したいが 躊躇する	46	11.3	6	9.4	7	11.5	14	16.5	9	7.6	10	13.3	-	-
利用したくない	73	17.9	11	17.2	15	24.6	19	22.4	17	14.3	11	14.7	-	-
わからない	197	48.3	31	48.4	29	47.5	33	38.8	68	57.1	34	45.3	2	50.0
無回答	4	1.0	1	1.6	-	-	-	-	1	0.8	1	1.3	1	25.0

図6-6 学生相談室の今後の利用意向



7. 大学生活全般について

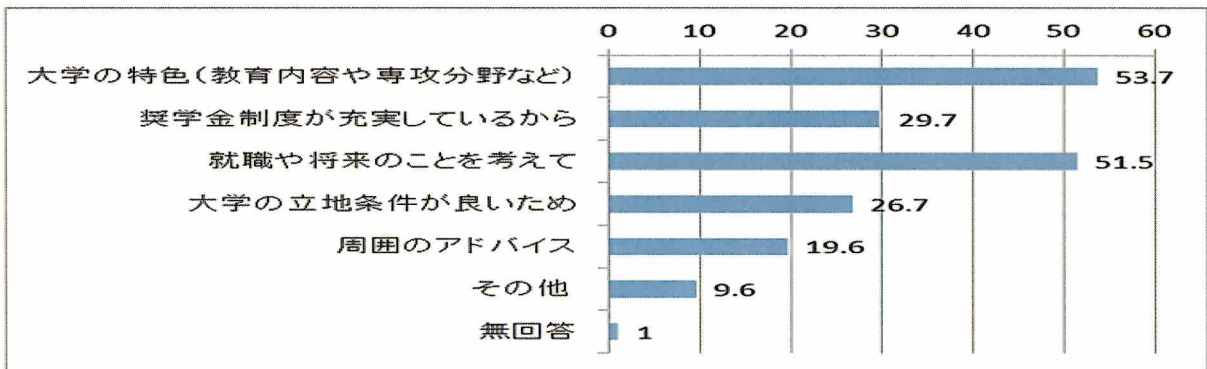
1) 本学を選択した理由 (質問 13 の A)

回答が得られた 408 名が本学を選んだ理由として、最も回答が多かった項目は、「大学の特色」の 219 名 (53.7%) であった。次いで、「就職や将来のことを考えて」が 210 名 (51.5%) であった。この結果は前回の調査とほぼ一致したものになっている。学部では 1、2 年生でこの傾向は逆転している。また、大学院では、大学の特色が将来性よりも大幅に多い。とりわけ、看護学専攻では 8 割以上がこの特色をあげているのは興味深い。(表 7-1)。

表 7-1 本学を選んだ理由

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
大学の特色(教育内容 や専攻分野など)	219	53.7	36	56.3	28	45.9	32	37.6	60	50.4	60	80.0	3	75.0
奨学金制度が充実し ているから	121	29.7	28	43.8	21	34.4	30	35.3	36	30.3	5	6.7	1	25.0
就職や将来のことを考 えて	210	51.5	38	59.4	37	60.7	41	48.2	69	58.0	25	33.3	-	-
大学の立地条件が良 いため	109	26.7	16	25.0	18	29.5	31	36.5	31	26.1	13	17.3	-	-
周囲のアドバイス	80	19.6	15	23.4	10	16.4	18	21.2	26	21.8	11	14.7	-	-
その他	39	9.6	2	3.1	6	9.8	13	15.3	9	7.6	9	12.0	-	-
無回答	4	1.0	1	1.6	1	1.6	-	-	-	-	1	1.3	1	25.0

図 7-1 本学を選んだ理由



2) 入学満足度 (質問13のB)

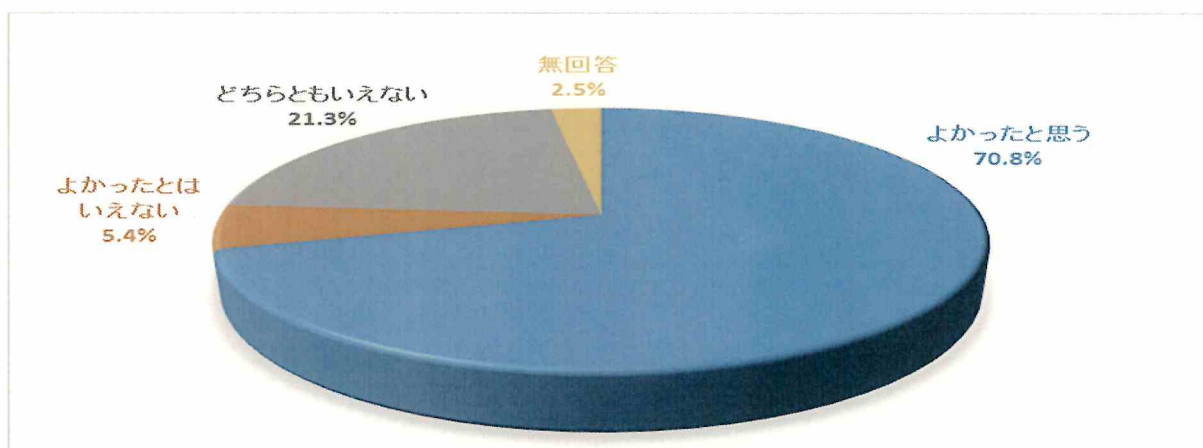
本学へ入学してからの満足度については、「よかったと思う」と答えた学生が最も多く 289 名 (70.8%) であった。一方、「よかったとはいえない」は 22 名 (5.4%)、「どちらともいえない」は 87 名 (21.3%) であった。「よかったと思う」については、2006 年の結果より数ポイント低下しているが、ほぼ横ばいといえる。現在の在學生の方が本学への入学をほぼ肯定的に受けとめている傾向にあった。

学年別に見ると、入学満足度は学年によって大きく異なり、4年生は8割弱が「よかったと思う」、1年生は7割、2、3年は6割だった。大学院では7割が肯定的に捉えている。（表7-2）。

表7-2 本学を入学してからの満足度

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
よかったと思う	289	70.8	48	75.0	40	65.6	53	62.4	94	79.0	53	70.7	1	25.0
よかったとはいえない	22	5.4	1	1.6	3	4.9	10	11.8	5	4.2	3	4.0	-	-
どちらともいえない	87	21.3	14	21.9	16	26.2	20	23.5	18	15.1	18	24.0	1	25.0
無回答	10	2.5	1	1.6	2	3.3	2	2.4	2	1.7	1	1.3	2	50.0

図7-2 本学を入学してからの満足度



本調査では、各選択肢に対してその理由についても記入を求めた。その結果、入学して良かったと思う理由として、授業・実習に関する記述（「災害看護をたくさん学べるから」「早期からの実習のおかげで実践への経験値が上がるので」「色々な看護分野の授業が充実し、興味がわく」「他の学校では学べる機会の少ない分野について学べるから」「実習での指導が細かい」「実習施設がしっかりしている」「興味、関心のある分野の授業や講習会に参加できる」「質の高い授業がうけられた」「他の大学にはない災害や赤十字のことが学べる」）が最も多かった。次いで教員に関する記述（「先生方が親身になって教えてくれる」「教員と学生の距離が近い」「先生が優しい」「教員の方が何に関しても熱心に対応してくれる」「先生方が熱心に教えてくださる学習環境が良い」「指導体制が良い。先生方が良い」「先生方にていねいに指導をしていただける」）も多かった。その他、「奨学金が充実している」「良い友人に恵まれた」「勉強が楽しい」「整った環境の中で勉強できるから」など本学で勉学することに自負と充実感を感じている学生もいることがわかる。一方、本学に入学して良かったとはいえない理由として、「時間割がバラバラで辛い、

まとめてほしい」「おもしろい授業がない」「別の看護大に通っている友人の話を聞いて、そっちの方が良いと思うため」「家から遠い/駅から遠い」「授業料に見合ったものが大学から提供されていない」「カリキュラムが大変」「統合大学にすればよかった」など1名ずつであるが、本学への不満が回答にみられた。どちらともいえないに回答した人たちには、学校が自宅から遠いこと、学費が高いこと、勉強が大変なこと（課題や実習など）、単科大学のため見聞が広めづらいこと、自分の問題として看護師になることへの迷いなどがあげられていた。

3) 勉強の継続についての意向（質問13のC）

本学で勉強を続けることについては、「このまま勉強を続ける」と答えた学生が371名（90.9%）と大多数を占めた。この傾向は、前回の調査よりわずかに減少しており。「他の看護系大学へ転学したい」「看護以外の専攻を変えたい」と回答した学生が微増していた。丁寧な学生サポートが必要であろう。（表7-3）

表7-3 本学での勉学の継続意向（学年別）

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
このまま勉強を続ける	371	90.9	59	92.2	52	85.2	82	96.5	107	89.9	68	90.7	3	75.0
他の看護系大学へ転学したい	2	0.5	-	-	-	-	-	-	2	1.7	-	-	-	-
看護系以外の専攻に変更したい	15	3.7	3	4.7	4	6.6	3	3.5	5	4.2	-	-	-	-
その他	15	3.7	2	3.1	4	6.6	-	-	5	4.2	4	5.3	-	-
無回答	5	1.2	-	-	1	1.6	-	-	-	-	3	4.0	1	25.0

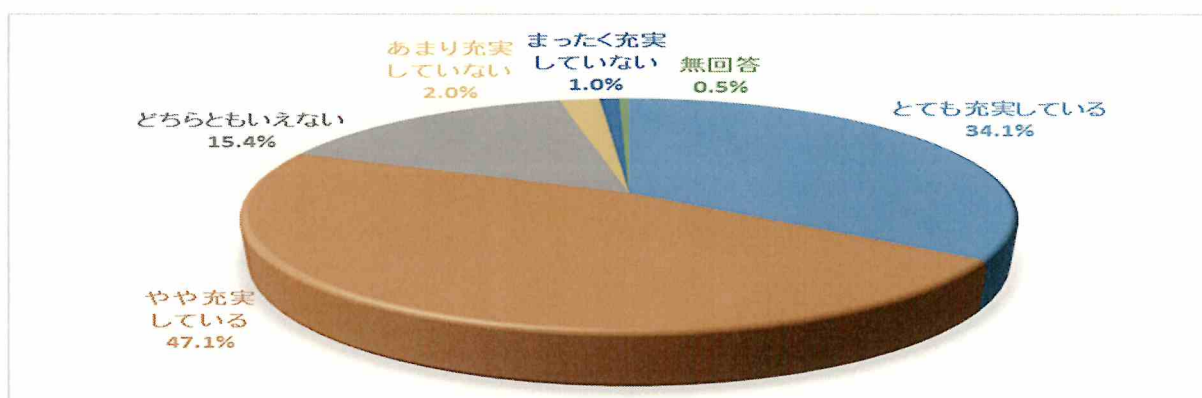
4) 学生生活の充実度（質問13のD）

大学生生活の充実度は、「やや充実している」と回答した学生が192名（47.1%）で最も多かった。次いで「とても充実している」139名（34.1%）であり、あわせると81.2%が多かれ少なかれ充実していると回答していた。一方、「充実していない」「全く充実していない」と回答した学生はあわせて12名（3.0%）いた（表7-4）。前回調査よりも充実している者の割合は横ばいであることがわかる。大学院は学部よりも充実度が7割であり低い結果になっている。

表7-4 学生生活の充実度

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
とても充実している	139	34.1	17	26.6	22	36.1	26	30.6	49	41.2	23	30.7	2	50.0
やや充実している	192	47.1	37	57.8	27	44.3	41	48.2	57	47.9	30	40.0	-	-
どちらともいえない	63	15.4	7	10.9	11	18.0	16	18.8	11	9.2	17	22.7	1	25.0
あまり充実していない	8	2.0	1	1.6	-	-	1	1.2	2	1.7	4	5.3	-	-
まったく充実していない	4	1.0	2	3.1	1	1.6	1	1.2	-	-	-	-	-	-
無回答	2	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.3	1	25.0

図7-3 学生生活の充実度



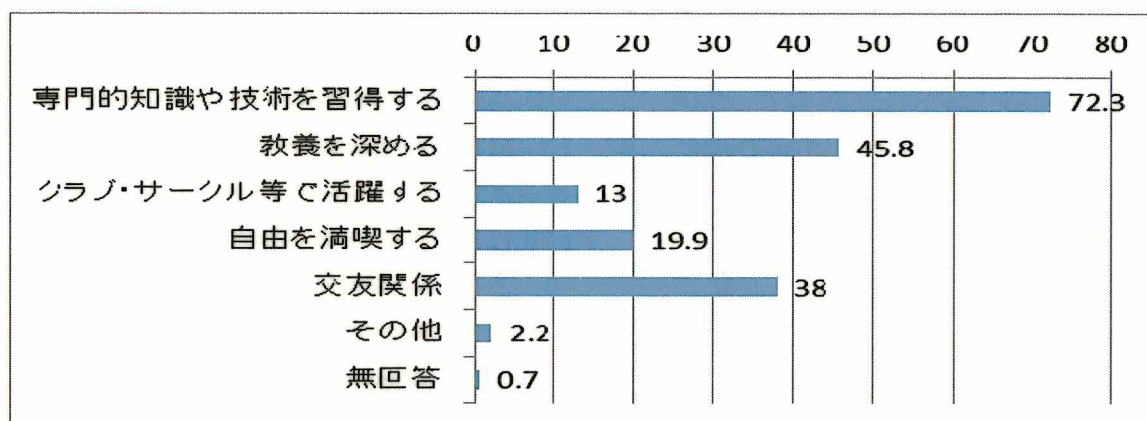
4) 大学生活の中で大切に思っていること (2つ以内選択) (質問13のE)

「専門的知識や技術を習得する」が最も多く295名(72.3%)を占めた。次いで、「教養を深める」187名(45.8%)、「交友関係」155名(38.0%)の順であった(表7-5)。この傾向は1、2年生では、「専門的知識や技術を習得する」、「交友関係」の順に変わる。また大学院では、「専門的知識や技術を習得する」「教養を深める」が大多数を占めている。入学目的の違いがここに反映されている。

表7-5 大学生活のなかで大切だと思っていること

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
専門的知識や技術を習得する	295	72.3	54	84.4	34	55.7	65	76.5	79	66.4	61	81.3	2	50.0
教養を深める	187	45.8	20	31.3	26	42.6	43	50.6	53	44.5	45	60.0	-	-
クラブ・サークル等で活躍する	53	13.0	10	15.6	8	13.1	9	10.6	26	21.8	-	-	-	-
自由を満喫する	81	19.9	16	25.0	16	26.2	15	17.6	30	25.2	4	5.3	-	-
交友関係	155	38.0	24	37.5	30	49.2	31	36.5	53	44.5	16	21.3	1	25.0
その他	9	2.2	-	-	-	-	1	1.2	1	0.8	7	9.3	-	-
無回答	3	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1.3	2	50.0

図7-4 大学生生活のなかで大切に思っていること



6) 大学に対する期待や要望 (3つ以内選択) (質問13のF、G)

「授業内容の改善」が最も多く159名 (39.0%) であり、次いで「福利厚生施設・設備の改善」「カリキュラムの改善」「教授陣の充実」の順に多かったが、これらの差は10ポイント以内であり、突出している項目があったわけではない。前回の調査では、「福利厚生施設・設備の改善」が約4割であった。大学には生協があり、購買部や食堂が整備されていると考えていたが、このような要望や期待があるのはいかなる意味であろうか。授業評価のアンケートと併せて、改善の必要な科目を特定していくことが必要であると思われる。

表7-6 大学に対する期待や希望 (複数回答)

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
教授陣の充実	118	28.9	11	17.2	18	29.5	18	21.2	32	26.9	38	50.7	1	25.0
カリキュラムの改善	122	29.9	18	28.1	18	29.5	31	36.5	40	33.6	14	18.7	1	25.0
授業内容の改善	159	39.0	17	26.6	25	41.0	38	44.7	56	47.1	22	29.3	1	25.0
講演会、教養講座等 課外教育プログラムの 充実	40	9.8	6	9.4	2	3.3	7	8.2	15	12.6	10	13.3	-	-
正課関連施設・設備の 改善	96	23.5	11	17.2	8	13.1	20	23.5	39	32.8	18	24.0	-	-
福利厚生施設・設備の 改善	131	32.1	24	37.5	21	34.4	30	35.3	40	33.6	16	21.3	-	-
課外活動施設・設備の 改善	17	4.2	4	6.3	2	3.3	4	4.7	6	5.0	1	1.3	-	-
奨学金・貸付金・融資 資金等の充実	58	14.2	9	14.1	9	14.8	7	8.2	14	11.8	19	25.3	-	-
学生の就職指導の 充実	55	13.5	5	7.8	6	9.8	22	25.9	18	15.1	4	5.3	-	-
その他	37	9.1	10	15.6	7	11.5	10	11.8	2	1.7	8	10.7	-	-
特にない	34	8.3	9	14.1	6	9.8	5	5.9	7	5.9	7	9.3	-	-
無回答	14	3.4	1	1.6	-	-	3	3.5	4	3.4	3	4.0	3	75.0

図7-5 大学に対する期待や要望

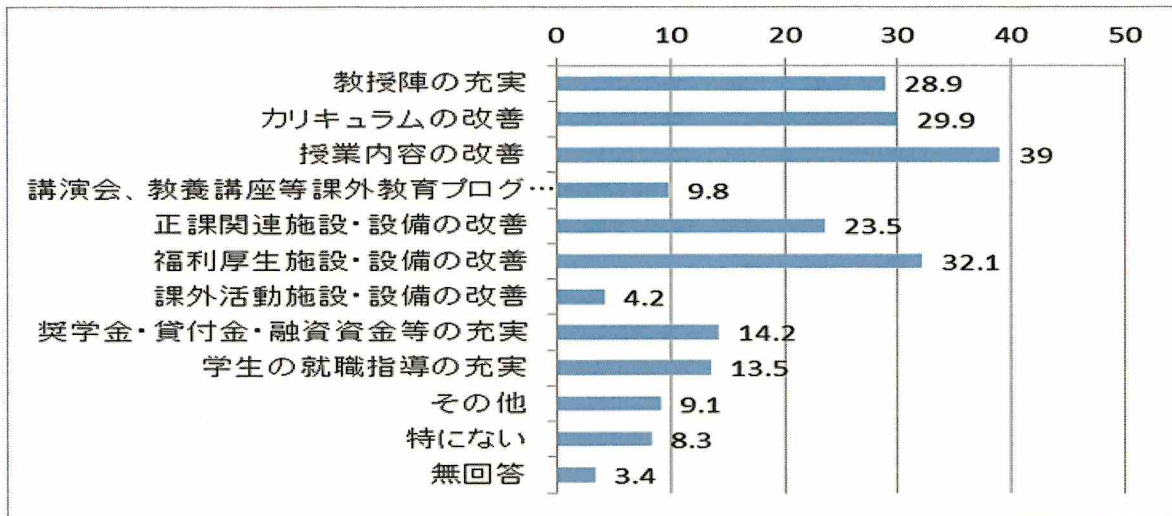


表7-7 大学に対する期待や希望（複数回答／自由記載）

<p>教授陣の充実</p>	<p>説明の上手な専門の先生が欲しい はっきり、スピーディーに話してくれないと眠くなります。 分かりにくい授業がある。教授の教え方により分かりやすさが変わってくる。 相模女子大なんかじゃなく早稲田、慶応の先生にしてほしい 実習時、教員によってやり方、考えに差がありすぎる、もっと統一してほしい。保健室の人が、話が通じないことがある。 医師を講師として招くのは良いが、パワーポイントは分かりづらい、配布資料はない、要点が全く分からないのでは意味がない。 だったら教科書を一冊自分で読んだ方がまし。 実習でTAに精神的にきついことを言われたので、学校の先生にちゃんと実習を見ていただきたい。授業アンケートで評価低い先生の授業を改善してほしい。 今で充分ですが、各領域による差をなくしてほしい（領域間のやりとりが少ない） 教授が忙しすぎる。 先生に学校生活のことを相談する機会がなく、また人間関係に悩んでも話すと外部へ漏れてしまうのでは？と思うため思っていることを話さずらい。 教授が学生のレディネスに合わせて、適切（自分はそう思っているのですが）な指導をして下さるので、今後もそのようにしていただきながら学んでいきたい。 看護系大学は教員の動きが大きくある様なので未永く良い教授の先生がいて下さると教育の質が高まると思い〇をつけました。 このまま質の高い教授陣であり続けてほしいと思う。 資源がどんどん失われていっているように思う。それ以上の資源を取り入れることに期待。 魅力ある教授のもとには人はあつまる。 CNS課目の充実 教授陣に実際にCNS資格を有している人が少ない。 何でこの先生が教師なんだろう、というような受ける気もわかない人がいる。（全員ではない） 教員によって分かりやすさが異なる 結局、授業を受けても分からず教科書をみて学び直すことが多い</p>
<p>カリキュラムの改善</p>	<p>疾病の授業の時間がコロコロ変わるのが困ると思った。（病院の先生なので仕方ないとは思いますが…） 1限と5限だったり、5限だけだったりともっとつめてほしい。1限と5限のみという授業カリキュラムをなくしてほしい。 時間割の組み方が悪い。全休あるクラスとないクラスがあるのは意味が分からない。選択授業ならまだ。 体育とか常に体を動かす授業を全学年で設けてもらいたい。時間割をもう少し改善してもらいたい（1,5限とかはやだ） 教養科目の充実 統計が全員必修選択の必要性が感じられません。 実習が多くて、へろへろです。 時間割の組み方についてある程度しょうがないことは理解はしているが、5限のみなどの入れ方をされると1日の予定が組みにくいと感じます。 過密なカリキュラムを避けて欲しい。避けられない場合、学生のメンタルヘル스에配慮してほしい。ストレスコーピングについて授業で取り扱って欲しい。アルバイトをするなど言うのなら、学費と生活費をアルバイトで稼がざるをえない学生の実態調査や、負担の少ないアルバイトの紹介などをして欲しい。 3年次の後期の授業が実習、授業のくりかえしよりも、実習だけで行いたい。4年の在宅を3年次にうつすなど、実習を4年の後期までやるのは、研究と国試勉強がすまない。 保健師の選択コースのカリキュラムが本当に大変でした。 4年生の授業や実習が後期までであるため、国試の勉強や研究へ他の大学生より時間を割くのが困難。カリキュラムの改善を希望する。 編入が養護教諭の資格をとれるように授業を組んでほしい。 教授がお忙しかったり、他の学年とのかねあいがあるためどうしても空きコマができてしまうのはわかるのですが、できるだけ空きコマの数が減ってくると嬉しいなと思います。</p>

疾病、人体等を1年間で全て詰めこむのは、あまりみになっていない気がする
 空きコマが多すぎるのもう少しつめてほしいです。
 カリキュラムの改善で、もっと時間を有効に使える時間割にしてほしい
 中学生レベルの英語の授業は嫌だ。行く意味ない。
 考えることを求める授業は、先生方の話は生の声といった感覚が強く、もっと難しくてもいいと思えるが、一年次に多い知識を詰める授業は（大学らしくないのかもしれないが）より覚える機会を作ったり、国試に近い問題をとけるような覚えることが明確な授業内容が必要だと、個人的には思う。留学先をふやしてほしい！
 保健師資格をもう少しはやめにとりこんでほしい（改善された）。いそがしい時といそがしくない時の差ははげすぎる人数いっぱい教室の時席取りを事前にされたり、荷物をおかれると授業ぎりぎりまで席が確保できない時がある。
 時間割がよくない、5限だけ、4限だけの日はやめてほしい。何考えてそのように設定したのかわからない。
 空きコマをなくしてほしいです。
 どの科目も提出がかさなることがあるから、一年間安定して勉強できるような改善を望みます。
 いくら看護大学といえど、一般教養科目が少なすぎる。そんなに深くなくてもいいから経済のしくみなどは今一度勉強させる科目を設定すべき。
 学年によってカリキュラムが違って、私たちの学年はきつというわさに聞いたので平等にしてほしい。
 行きあたりばったりが多く質が低い
 1,2,3,4年を通して、前期に全てがつまりすぎて疲れる（後期はゆとりがある）
 助産コースのカリキュラムに倫理の授業を必修で入れてもらいたい。コピーカードの枚数を増やしてもらいたい。

授業内容の改善

もっといろいろな授業をつくってほしい。（教養科目）
 GWを増やす、外部講師を招く
 前期につめすぎて、後期ががらあきだったりアンバランス実習の担当教員が学生側にとって実習をすすめてくれないことがある。
 もっと就職した時に実践的に役立つようなことを机上や演習で教えて頂きたい。
 外部講師の話を開ける機会が増えると良いと思う
 レジュメもくばられないような授業もあり、伝わってこないことが多い。
 教授による知識定着に向けての行動の差が大きすぎる
 もっと実用的な英語を学びたかった。
 授業の質にムラがある。
 病院から講義して下さる医師の授業がつまらない
 外部からの医師などの授業がわかりにくい。
 海外演習を増やす
 助産の院生も倫理の授業を（火）or（水）でとれるようにしてほしい
 学校による授業内容の把握。
 授業は、質の良いものもあるが、ただテスト前に勉強しているだけという感じで、得られているものの実感がないものもある。
 レポートやテストなど、採点された後どこが改善されればいいのかを知りたいので返却してほしい。
 例えば統計学と疫学。教員の意図は理解できるが、卒業して研究する時統計の手法を使いこなせるか疑問です。大学は統計学、疫学について何を学ばせたいのかどうなしてほしいのでしょうか。
 1年次の解剖生理や疾病に関する授業担当の教授の授業方法やテスト内容に不満があったから
 課題や実際に国試をとくような時間をもっと確保する。解説も含む
 教授陣、生理学は独学でやるしかなかった。
 実習と授業が忙しすぎる。実技の授業でくらいマニキュアは許してほしい。先生方の授業が下手すぎるのを何とかしてほしい。高い学費を出して受ける価値があると思えない。
 淡々と話す授業ではなく、技術論や小児のようにわかりやすく面白い授業をうけたい。
 つめこみ教育すぎる。課題ばかりの毎日。睡眠時間をけずり、無理する毎日です。カリキュラムや教師陣の手厚いサポートがある点で、この大学院に来て良かったとは思っている。しかし、人間的な生活の観点より、他人に自信をもってススメられない。
 実習がきつ、勉強したいことがあってもその時間を体力回復にあてなければならないことが多い

講演会、教養講座等課外教育プログラムの充実

課外学習、講座、専門資格をとることができる機会がまったくない。とりに大きな病院があり、よくそれらのコースを本学で行っているが見学すらできない。もったいない。
 海外研修をより充実したものに
 人間を看護する上では、経済学や社会学、哲学、生命倫理などを体系的に学ぶ必要があると思う。そのような学問を学ぶ機会が欲しい。
 もっと、学生向けの講演があればと思います。学務で紹介されている講演に行っても院生ばかり。学生の興味関心が少ないというのもあると思うが講演内容もある程度の知識がある人向けな気がする。
 講演会はユニークなもしくは少し有名な方があればうれしいです。
 様々な分野での講演会が充実することにより、勉強への意識が高まると考えるので定期的に関催してほしい。
 国際活動をしている赤十字として留学の機会や幅（行くことができる人の）を増やしてほしい。

正課関連施設・設備の改善

コンセントを増やす。Wifiを増やす
 土日も学校を使えるようにしてほしい。
 図書館の本をふやしてほしい。図書がないものが多い。
 図書館の開館・閉館の時間（もっと長くあいてほしい）、日曜日もつかいたい
 図書館にブルーレイを置いてほしい。
 経済的な問題でむずかしいのは理解していますが、図書館を常に開けてもらえたら嬉しい。それが無理でも、実習前中の閉鎖は勉強する環境がなくなってしまうのでできればやめていただきたいです。実習中やテスト期間は24時間あけていただけるととても嬉しいです。
 図書館を日曜日でも開館してほしい。テスト中や実習中、とても困る。
 冷暖房のお願いをする時に嫌な顔をされる。
 図書館のじかんを早めて。
 図書館の自習スペースがもう少し多いと良いと思う。
 エレベーターをつかえるようにする。学校を24時間いれるようにする。

医中誌webに入れる人数

休日にも図書館、パソコン室を開放してほしい

土、日が17時までしか院生室が開いていないのでとても困っています。仕事が終わって、その後勉強をするために来たくても出来ない現状です。聖路加大学は24時間開放していると聞き、当大学でも必要性を強く感じています。他の方も同様の意見をお持ちです。

教室、院生室の改善

日本でも一番と言う図書館ですが、まだまだ足りない新しい本は教授室にあることが多いが、図書館にもあるとよい。

図書館の開館日、時間が短すぎる。特に今の長期休暇は困る。

図書館は、あんがい医学系のもはそろってないと思います。あと、休館日が多い。

コピー機の台数が少ない！

広尾ホールの前？横が雨が降ると水たまりになって、歩きづらいです。学会や研修の会場となることが多く、外部の方も来られるので改善した方がよいと思います。

本を検索した時に図で場所が特定されるようにしてほしい。

図書館やパソコン室の利用時間を増やしてほしい。

ラウンジ等の照明を明るくしてほしい

パソコンの医中誌のログイン数を増やしてほしい・図書館の開館時間をのばしてほしい。日ようもやってほしい。

助産学専攻の印刷枚数の下限をなくして下さい。助産学生は20人いません。印刷のために毎回先生から電話をしてもらおうのも大変ですし、先生からの電話で許可していただけるなら、印刷枚数の下限をなくして欲しいです。

1Fのコピー機を先生の許可なく使用したいです。授業で資料をコピーすることが多く、もらったコピーカードですぐなくなってしまい足りないです。また、先生にも手間になるため、簡単に手続きを行えるにしてほしいです。・また、食堂の準備量が少なく、授業の準備などで12:30くらいに行くとき品物がなくて改善してほしいです。

窓あけたい

印刷カードを受け取る時、20枚以上でないといけないのはなぜ？明らかに部数が多く、自分の印刷カードやパソコンからだ負担になるのですが…先生に確認してOK取る手間、それか、コピーカードまたは印刷枚数（パソコン）の配布をしてください。→院生専用のコピー機、コピーカードをつくって下さい。

コピーをもっと規制を和らげ、使用しやすくしてほしい。なぜ20人以上に配る場合のみなのでしょう。10人以上に配布するために印刷する資料の量が多いので改善してほしいです。

210（教室）が狭すぎる、1学年+編入生でギリギリ、机と机の間隔が狭くなりがちではさまれそうになる。

施設利用に関して、もっと学生目線に立ち柔軟に対応してほしい。

学校のでんきが暗い。土日の開放ない。

図書館のオープン時間、期間の制約ありすぎ。23時でcloseなのは、時に迷わく。必要時、勉強できるようにして下さい。

事務室前コピー機の印刷可能枚数が20枚～が困っている。助産は20人もいない。授業毎の人数分コピーが自費なのはつらいです。

福利厚生施設・設備の改善

もっと、食堂のメニュー増やしてほしい

食堂の座席数を増やす

ロッカーがちよっと狭いのと、wifiが学校全体に届いてないので一番にwifiの状況をよくしてほしい。

食堂、メニューを安くしてほしい。

食堂におけるメニューだったりロッカー室の広さなど

学食があいている時間を長くしてほしい

コンビニ

学祭の縮小、スポーツ大会の廃止など、学生主催のイベントの縮小をやめていただきたい。又それに関連して教室等の利用システムや開校時間、日程をのばしてほしい。土、日の開校。

食堂料金が他の学食より高く、種類が少ない。また、用意される量も少ないのか、すぐ売り切れる。昼の時間しか食事できないため、昼に作業し、空きコマに食事ということができない。

生協の利用時間をのばす、品数増やす、ロッカーを広くする

食堂や生協の閉店時間が早い

図書館はなぜ日曜日はやっていないのか。他の大学は24時間やっていたり、日曜日にも入れる。差は何か。学業の妨げになっているのでは？

ロッカーの配置が使用しづらい。食堂の空いている時間が短かすぎる。

コピー機を増やしてほしい。

学食をもう少し安くしてほしい。メニューを増やしてほしい。

食堂が混んでいる時、食べる場所と時間がない。

ロッカーが細長いので着替えの時つらい、混雑する。

学費が高いのに、節約しすぎている。ろう下が暗くて印象が悪い。

人数に対して食堂のイス足りていない。

学費は高いのに設備がケチ

教室、図書館の温度調節がちょうどよくなって、寒いことが多い。・ロッカーの1人分のスペースがせまいので、演習の授業前後に着替えるスペースがせまい。不便。

授業が終わった後の教室や食堂など使っているのに無言で電気を消されたり、使用している（授業中の）教室以外のラウンジなど暗く、自習する環境が整っているとは言えないと思う。（図書館は話ができないため）

食堂は食事の質や営業時間の改善、カフェとしても利用できるようにしてほしい。学費が高く、負担が大きい。生活費が困きゅうする。3年での修了をめざすと積極的にアルバイトができない。生活のためにアルバイトをすると研究が進まない。大学院生に対する金銭的な支援を熱望する。3年以上の博士の院生の学費をへらすのと同時に、3年以内で修了をめざす人にも支援をしてほしいと、3年以上かかって修了する人はへらさない。

修士での研究論の時間・内容の充実を！色んな先生の話しをききたい。院生泊まれるようにandシャワー室がほしい。

保育施設でどこか入れてもらえるところと連携してほしい。学生だと専業主婦あつかいで、入れてもらえなかった。

食堂や売店のopen時間をのばしてほしい。

食堂の営業時間が短い。昼は面談や会議等で利用できない。（前の大学 11:00～14:00 open time）

ロッカーの幅が狭すぎて隣の人の邪魔になったりするので、学年を混ぜるなどして同時に使用する人とはなるべく離してほしい。

仮眠室がほしい。図書館の一般的な図書書をより充実させてほしい。

クラスがえしなないでほしい。（2年次のA,Bクラス）

上にはないが、購買の営業時間を増やしてほしい。

パワーポイントがうつらないなどのトラブルが多い

男子更衣室が汚い。ベンチが奥にない。臭い。

夜も食堂が購買をopenしてほしい。

<p>ロッカーを土日でも開けてほしい。図書館を22時まで開けてほしい ロッカー室のスペースの違い1学年が1カ所に集められると、実習や演習時の時に更衣の際、非常に不便 教室の温度がエアコンがききすぎだったり、寒いのに暖房をつけないのはどうかと思う 自動販売機に温かい飲み物を充実させてほしい。 食堂の時間が短いと思います。みなと赤十字病院の大学院生の奨学金の隔もあれば嬉しかったです。 食堂のメニューがいつも同じです。学生が求めているを理解してほしいです。</p>
<p>課外活動施設・設備の改善 部室が物置きになっていてそこでの活動がむずかしい。音を出せるのが広尾ホールのみなのが少し残念。 部室がとてもしなくて、災害が起きた時は最も危険なスペースだと思います。個人的には片付けたいけれども、勝手にできないし、他サークルとのスペースの区切りをしっかりとしてほしい。はり紙は全く効果がない。</p>
<p>奨学金・貸付金・融資資金等の充実 被災者の援助が欲しかった。 奨学金（給付）の取扱先を増やしてほしいです。また、領域によって金銭面に差があるので「〇〇支給」といったものを作ってほしい。（院）に対して 日赤以外だと奨学金がうけづらい 経済的に心配なことが多いので安心して学業に取りくめるよう、返済必要のない奨学金をうけたい。 大学指定の奨学金がインターネットで見つけても、本学が対象のものはほとんどない。 奨学金の額を増やしてもらいたい。 もっと分かりやすくしてほしい。 奨学金は、本当にこまっている人にエントリーされているのかと思う。</p>
<p>学生の就職指導の充実 奨学金を受けていない人への対応、指導、アドバイスを手厚くしてほしい。 奨学金以外の就職 私が就活に苦労したから 就職や進学について、サポートを積極的に受けたことがないと思う。もう少しサポートしてほしい。 良い学びに良い就職ができれば良い 1年次から奨学金（病院からの）を得ていない生徒に向けた就職についての説明会を開いてほしい。 国試対策についての話は良く聞かなくて、就職についての話はあまり聞かないので、指導を充実してほしいです。 無利子の奨学金の枠を増やしてほしい。 日赤以外の就職もしやすいような支援 赤十字系列以外の病院の就職を考えているがクラス担任が詳しくないため、誰に相談すればいいかわからない。他の病院への就職を希望している学生への支援を充実してほしい。 就職情報室の存在を12月まで知らなかった。行って見たがあまり情報が充実していると思えなかった。 就職先のえらび方や面接について等を知れる機会がもう少しあればと思う。 奨学金をとっている学生は多いが、一から就職活動を行う生徒もいるため、就職について誰（教授なのか、事むか）に質問するべきかなど、知らせてほしい。 就職者と担任との定期的な面談 奨学金を使う学生が多いので就職指導が少なかつたと思う。奨学金を使って後悔している人もいるようなので、1年のときから耳に入れさせる程度の指導があってもいいと思う。 実質奨学金生が多く、だれにどのタイミングで相談したらいいのか分かりません。クラス担任などが決められていても、先生方も実習や授業があり、忙しそうだからと言いつらいです。 就職について相談する時誰に相談すればいいかわからない（トータルで保健師病院）</p>
<p>その他 選択科目によって時間割は人それぞれでしかたないが、1限と5限の日はつらい…。どうにかしてほしい。 学費、再試代が高いのに、あまり私たちに返ってきている感じがしない。学祭での資金も少ないと思う。節電しているのに、クリスマスツリーのライトは点灯するなどお金の使い方に疑問を感じる。 再試代高い、wifi全教室に通してほしい、ぼったくり、ケチ 学食が高い。 高校ではどのような事にいくら…で詳細が出るが、大学の明細はざっくり。コレだけ払つとざっくりすぎる。高い。学費を払つてる身としてつらい。保ご者会のお知らせを郵送とかもムダな気がする。 学費の見直し、土・日に学校（パソコン、図書館）が十分に利用できない 実習施設をえらぶ時お金がかからないところを選ぶよう言われたがその意図がわからない クラス替えはいらなないと思います。空きコマが多すぎる。 スポーツ大会や文化祭を今年のように盛り上げるなど。あと大学をもっと明るくしてほしい。せつかく窓が大きくたくさんあるのにブラインドが全てかかっていて光が入らず、脳でセロトニンができないのでうつのような状態になりそうです。どうにかして下さい。もったいない。外から見るとやっていない大学のように見えます。印象が暗い。 空きコマが多すぎるので満足にアルバイトもできず、土日に入ることでも勉強もできない。時間割をもう少し考えてほしい。 ちなみに、他の学校では独自の資料を一冊にまとめたりしているのを見たため、本学もそうした方が良かったと思った。レジュメを使用するならもっと見やすくすべき。 実習施設がいずれも自宅から遠く、住居などのサポートが必要だと考える。家族に医療関係者がおらず、勝手にわからないことが多い。 もう少し年間の授業料を安くしていただきたい 「赤十字」という外国にもパイプがある機関なのだから、それを利用して留学の充実と手が出しやすい値段に変更して下さい。 千葉、茨城、栃木に住んでいる人（実家から通う人たち）があきらかに不利な実習先しか用意されていない。実家暮らしは都内、神奈川県民だけではなく、同じ学費で実習の時だけホテル代がかかって親にいつも頭を下げている人がいることをわかってほしい。通える範囲だから大学に来ているのに。 学内が暗いことの改善、照明 常に学費の負担を考えないといけない状況では学業に集中できないこともある 研究室の中に共有スペースが欲しい（以前はあったのだがなくなってしまい、情報共有やちょっとした会話がしづらい） 不満はないです。</p>

8. 卒業後の進路について

1) 卒業後の進路希望 (質問14)

卒業後の進路希望は、「病院等に就職」と答えた学生が310名 (76.0%) と最も多く、他を大きく離れた回答であった。(表8-1)。

学年別にみても、この回答傾向は同じであった。ただし、3年生、4年生においてのみ、「大学院に進学」と回答した者の割合が、10名程度 (10%前後) で多かった。また、大学院において、前回の調査時と同様に「まだ決めていない・分からない」の割合が合わせて2割近くいたことは引き続き留意する必要がある。

表8-1 卒業後の進路希望について

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	408	100.0	64	100.0	61	100.0	85	100.0	119	100.0	75	100.0	4	100.0
病院等に就職	310	76.0	54	84.4	52	85.2	64	75.3	98	82.4	41	54.7	1	25.0
企業・自治体に就職	4	1.0	1	1.6	1	1.6	-	-	1	0.8	1	1.3	-	-
大学院に進学	24	5.9	1	1.6	1	1.6	10	11.8	11	9.2	1	1.3	-	-
他大学に進学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
助産師学校に進学	6	1.5	2	3.1	-	-	3	3.5	1	0.8	-	-	-	-
教育機関(養護教員な どを含む)に就職	9	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	9	12.0	-	-
保健所・保健センター に就職	3	0.7	-	-	-	-	1	1.2	2	1.7	-	-	-	-
外国に留学	3	0.7	-	-	1	1.6	-	-	1	0.8	1	1.3	-	-
専業主婦(夫)	3	0.7	-	-	-	-	-	-	2	1.7	1	1.3	-	-
まだ決めていない・わ からない	31	7.6	6	9.4	5	8.2	6	7.1	1	0.8	13	17.3	-	-
その他	8	2.0	-	-	1	1.6	-	-	-	-	7	9.3	-	-
無回答	7	1.7	-	-	-	-	1	1.2	2	1.7	1	1.3	3	75.0

2) 就職したい病院 (質問14-1)

就職したい病院は、「日赤系の病院」が235名 (75.8%) と最も高い割合を占め、2000年の調査時で56.3%、2006年で72.6%、2011年では82.3%と増加傾向であったが、今回の調査で若干低下した。しかし12年前と比較して大幅な増加になっているのは、やはり不景気にもない奨学金貸与の学生が多いためであると推察できる。また、2011年で2.4%であった「国公立の病院」が25名 (8.1%) と増加したことについては、生活の安定や福利厚生の実などが考えられるが、今後の推移を見て更なる考察が必要といえる。

表8-2 就職したい病院

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	310	100.0	54	100.0	52	100.0	64	100.0	98	100.0	41	100.0	4	100.0
日赤系の病院	235	75.8	45	83.3	47	90.4	48	75.0	80	81.6	15	36.6	-	-
国公立の病院	25	8.1	1	1.9	1	1.9	6	9.4	11	11.2	6	14.6	-	-
大学病院	19	6.1	4	7.4	2	3.8	6	9.4	1	1.0	6	14.6	-	-
その他の病院	22	7.1	2	3.7	1	1.9	4	6.3	6	6.1	8	19.5	1	25.0
診療所	1	0.3	1	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	5	1.6	1	1.9	1	1.9	-	-	-	-	3	7.3	-	-
無回答	3	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	3	7.3	-	-

3) 大学院進学 (質問14-2)

進学したい大学院は、日赤が7割であるが、この数は僅か17名にすぎない。2011年も9名(81.8%)で、5名が1年生で4年後の進学を予測するには脆弱であった。しかし今回は6名が3年生、8名が4年生となっており、3、4年生に向けた広報活動が功を奏し、徐々にではあるが学生の取り込みの成果が表れた結果だといえる。引き続き、大学院改革を継続し、予備軍である学生の取り込みを行い、全体数を上げる必要があると考える。

表8-3 進学したい大学院

	全体		1年		2年		3年+ 編入3年		4年+ 編入4年		大学院修士+ 大学院博士		学年不明	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
計	24	100.0	1	100.0	1	100.0	10	100.0	11	100.0	1	100.0	4	100.0
本学	17	70.8	1	100.0	1	100.0	6	60.0	8	72.7	1	100.0	-	-
本学以外	7	29.2	-	-	-	-	4	40.0	3	27.3	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

附 録

(調査票)

＝ 学生の生活実態調査 ＝

2016.11

調査の目的

この調査は、皆さんの現在の生活の実態を知り、大学生活をよりよいものにするために行うものです。本調査の目的以外に調査結果を使用することはありませんし、個人が特定されることはありませんので、ありのままをご回答ください。また、調査結果については、後日お知らせいたします。

回答には30分程度要しますが、ぜひともご協力をお願いします。

日本赤十字看護大学 学生生活就職支援委員会

質問1. 現在、住んでいる住居の種類についてお聞きします。下記の項目の中から一つ選んで○をつけてください。

1. 実家
2. 実家以外
 - 1) 下宿
 - 2) アパート・マンション
 - 3) 学生会館
 - 4) 自宅(結婚などして)
3. その他(具体的に)

質問2. あなたは、現在の住居について満足していますか。下記の中からあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

1. 満足している → (質問3)へ
2. 満足していない → (質問2-1)へ
3. どちらともいえない → (質問3)へ

質問2-1. [質問2で2. 満足していない]を選択した方にお聞きします。

満足していない理由について、該当する項目全てに○をつけてください。

1. 学校から遠い
2. 築年数が古い
3. 狭い
4. 家賃が高い
5. 周囲が騒がしい
6. 安全面で不安がある(具体的に)
7. その他(具体的に)

質問3. 現在のあなたの1ヶ月の平均的な収入などについてお聞きします。なお、以下の項目は全て学校納付金を除く経済生活とします。各項目について、それぞれあてはまるもの一つを選んで○をつけてください。

A) 家族からの援助額(生活費として)

1. 3万円未満
2. 3万円～6万円未満
3. 6万円～9万円未満
4. 9万円～12万円未満
5. 12万円～15万円未満
6. 15万円～18万円未満
7. 18万円～21万円未満
8. 21万円～24万円未満
9. 24万円～27万円未満
10. 27万円～30万円
11. 30万円以上

B) 現在受けている奨学金の種類

1. 日本赤十字社医療センター
2. 日本赤十字社都道府県支部および赤十字病院
3. 日本学生支援機構 第一種
4. 日本学生支援機構 第二種
5. その他 (具体的に)
6. 受けていない

C) アルバイトによる収入

1. ある → 質問D) へ
2. ない → 質問4) へ

D) 授業期間中の1ヶ月のアルバイト収入額はいくらですか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|----------------|--------------|--------------|
| 1. 1万円未満 | 2. 1万円～2万円未満 | 3. 2万円～3万円未満 |
| 4. 3万円～4万円未満 | 5. 4万円～5万円未満 | 6. 5万円～6万円未満 |
| 7. 6万円～7万円未満 | 8. 7万円～8万円未満 | 9. 8万円～9万円未満 |
| 10. 9万円～10万円未満 | 11. 10万円以上 | |

F) 職場からの収入

1. ある
2. ない

質問4. 現在のあなたの1ヶ月の平均的な支出(自分自身に関わる支出のみ)などについてお聞きします。なお、以下の項目は全て学校納付金を除く経済生活とします。各項目について、それぞれあてはまるもの一つを選んで○をつけてください。

A) 食費 (自宅通学者は外食費)

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 1万円未満 | 2. 1万円～2万円未満 | 3. 2万円～3万円未満 |
| 4. 3万円～4万円未満 | 5. 4万円～5万円未満 | 6. 5万円以上 |

B) 住居費 (家賃、光熱水費を含む) <自宅通学者は除く>

- | | | |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 3万円未満 | 2. 3万円～5万円未満 | 3. 5万円～7万円未満 |
| 4. 7万円～9万円未満 | 5. 9万円～11万円未満 | 6. 11万円以上 |

C) 勉学費 (学納金を除いた書籍、文具、コピー等に要する経費)

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円～1万円未満 | 3. 1万円～1.5万円未満 |
| 4. 1.5万円～2万円未満 | 5. 2万円以上 | |

D) 通学費

- | | | |
|----------------|----------------|--------------|
| 1. 0円 | 2. 1～5千円未満 | 3. 5千円～1万円未満 |
| 4. 1万円～1.5万円未満 | 5. 1.5万円～2万円未満 | 6. 2万円以上 |

E) 教養・娯楽 (CD・DVD・本・コンサートなど)

1. 5千円未満	2. 5千円～1万円未満	3. 1万円～1.5万円未満
4. 1.5万円～2万円未満	5. 2万円以上	

F) 嗜好品費 (煙草・酒・レジャーなど)

1. 5千円未満	2. 5千円～1万円未満	3. 1万円～1.5万円未満
4. 1.5万円～2万円未満	5. 2万円以上	

G) 習い事の費用 (英会話・ダンス・茶道・華道など)

1. 5千円未満	2. 5千円～1万円未満	3. 1万円～1.5万円未満
4. 1.5万円～2万円未満	5. 2万円以上	

H) 通信費 (携帯電話・インターネット契約、接続料等を含む)

1. 1千円未満	2. 1千円～5千円未満	3. 5千円～1万円未満
4. 1万円～1.5万円未満	5. 1.5万円～2万円未満	6. 2万円～2.5万円未満
7. 2.5万円～3万円未満	8. 3万円～3.5万円未満	9. 3.5万円～4万円未満
10. 4万円～4.5万円未満	11. 4.5万円～5万円未満	12. 5万円以上

I) 総支出額 (A)～H) を加算したもの。学校納付金を除く。

1. ～3万円未満	2. 3万円～6万円未満	3. 6万円～9万円未満
4. 9万円～12万円未満	5. 12万円～15万円未満	6. 15万円～18万円未満
7. 18万円～21万円未満	8. 21万円～24万円未満	9. 24万円～27万円未満
10. 27万円～30万円未満	11. 30万円以上～	

質問5. アルバイトの状況について、質問3のC)で「ある」と回答した学生にお聞きします。
下記のA)～G)の各項目について、それぞれお答えください。

A) 入学以来、アルバイトをどのようにしていましたか。一つだけ選んで○をつけてください。

1. 長期休暇のみ	2. 授業期間中ときどき	3. 授業期間いつも
4. 授業、実習期間いつも	5. 長期休暇中及び授業期間いつも	
6. その他 (具体的に)		

B) アルバイトの目的はなんですか。該当する項目全てに○をつけてください。

1. 学費及び勉学費を得る	2. 生活費を得る
3. クラブ活動・習い事等の費用を得る	4. 娯楽・嗜好品費を得る
5. 高額商品を購入する	6. 社会勉強
7. 友人を作る	8. 時間が空いているため
9. 通信費	
10. その他 (具体的に)	

【C)～F)は、授業期間中にアルバイトをしたことのある学生への質問です。授業期間中にはアルバイトをしたことがない学生は、G)に進んでください。】

C) 授業期間中の1週間の平均アルバイト日数はどのくらいですか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 1. 1日 | 2. 2～3日 | 3. 4～5日 | 4. 6～7日 |
|-------|---------|---------|---------|

D) 授業期間中の1回の平均アルバイト時間はどのくらいですか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 2時間未満 | 2. 2時間～3時間未満 | 3. 3時間～4時間未満 |
| 4. 4時間～5時間未満 | 5. 5時間～6時間未満 | 6. 6時間以上 |
| 7. その他 () | | |

E) 授業期間中の1時間あたりの平均アルバイト賃金はどのくらいですか。一つだけ選んで○をつけてください。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1. ～ 799円 | 2. 800～ 999円 | 3. 1,000～1,199円 |
| 4. 1,200～1,399円 | 5. 1,400～1,599円 | 6. 1,600～1,799円 |
| 7. 1,800～1,999円 | 8. 2,000円～ | [具体的に 円] |

F) 授業期間中のアルバイトについて、該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|---------|---------------|
| 1. 家庭教師・塾講師 | 2. 事務職種 | 3. 販売業 (レジなど) |
| 4. 接客業 (ウェイター・ウエイトレスなど) | | |
| 5. 医療職 (具体的に) | | |
| 6. その他 (具体的に) | | |

【G)は、長期休暇中にアルバイトをしたことのある学生への質問です。長期休暇中にはアルバイトをしたことがない学生は、質問6に進んでください。】

G) 長期休暇中のアルバイトについて、該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|-------------------------|---------|---------------|
| 1. 家庭教師・塾講師 | 2. 事務職種 | 3. 販売業 (レジなど) |
| 4. 接客業 (ウェイター・ウエイトレスなど) | | |
| 5. 医療職 (具体的に) | | |
| 6. その他 (具体的に) | | |

【全員の学生にお聞きします。】

質問6. あなたは、現在、課外活動 (学内外) に参加していますか。(○はひとつ)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 加入し、活動している | } (問6-1) へ |
| 2. 加入のみで、活動していない | |
| 3. 以前加入していたがやめた → | (質問6-1) および (6-2) へ |
| 4. 最初から加入していない → | (質問6-3) へ |

質問6-1. 「質問6」で1～3と回答した学生にお聞きします。

課外活動について下記の<A～C>の各項目についてそれぞれ回答してください。

A) 加入している (していた) 学内のサークル・同好会名に○をつけてください。

- | | | |
|---------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 1. 総合音楽サークル | 2. 手話サークル | 3. 茶道部 |
| 4. NACEF | 5. 災害救護ボランティアサークル SKV | |
| 6. EFC ボランティアサークル | 7. Hinaharap | 8. Cross Ring Circulation (CRC) |
| 9. 総合運動サークル | 10. 日赤硬式テニス部 | 11. Arrosoir |
| 12. IKAN 室内楽アンサンブル部 | | |

B) 加入している (していた) 学外のサークル・同好会・ボランティアの活動内容について、該当する項目全てに○をつけてください。

- | |
|--|
| 1. スポーツ系 (具体的に:) |
| 2. 文化系 (具体的に:) |
| 3. 社会への貢献 (例: 手話ボランティア、被災地への貢献、学童へのサポート)
(具体的に:) |
| 4. その他 (具体的に:) |

C) 課外活動に参加した目的は何ですか。該当する項目全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1. 友人を得るため | 2. 知識・教養・技術等を身につけるため |
| 3. 人格形成のため | 4. 興味・関心があったから |
| 5. 楽しむため | 6. 健康増進のため |
| 7. その他 (具体的に:) | |

D) クラブ活動 (課外活動) 時間は週平均してどのくらいですか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間～2時間未満 | 3. 2時間～3時間未満 |
| 4. 3時間～4時間未満 | 5. 4時間～5時間未満 | 6. 5時間～6時間未満 |
| 7. 6時間以上 | | |

質問6-2. 「質問6で3. 以前加入していたがやめた」と回答した学生にお聞きします。

課外活動を途中でやめた主な理由を一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1. 課外活動に興味なくなった | |
| 2. 課外活動の方針への不満や人間関係上のトラブル | |
| 3. 学業と両立しない | 4. アルバイトがあるから |
| 5. 通学時間が長いから | |
| 6. その他 () | |

質問6-3. 「質問6で4. 最初から加入していない」と回答した学生にお聞きします。

課外活動に参加したことのない、主な理由を一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 課外活動に興味がない | 2. 興味ある課外活動がない |
| 3. 学業と両立しない | 4. アルバイトがあるから |
| 5. 通学時間が長いから | |
| 6. その他 () | |

【全員の学生にお聞きします。】

質問6-4. 以下のA)～C)についてそれぞれお答えください。

A) 本年度の夏期休暇の主な行動について、該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|--------------|----------|---------------|
| 1. 国内旅行 | 2. 海外旅行 | 3. 自動車等の免許の取得 |
| 4. 合宿 | 5. 研究や勉強 | 6. アルバイト |
| 7. ボランティア活動 | | |
| 8. その他 (具体的に | |) |

B) 大学入学以来、技術や資格等の獲得のために学外の学校に通ったことがありますか。
(○は一つ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. ある → (B-1) へ | 2. ない → (C) へ |
|-----------------|---------------|

B-1) [B] で 1. ある と回答した学生にお聞きします。

学外の学校でどのような講座を受講しましたか。下記の講座で該当する項目全てに○をつけてください。

- | | | |
|---------------------|---------------------|-------|
| 1. 語学 | 2. スポーツ・エアロビクス・ダンス等 | |
| 3. 各種資格の予備校 (資格名:) | | |
| 4. 茶道・華道 | 5. 料理 | 6. 音楽 |
| 7. その他 (具体的に | |) |

【全員の学生にお聞きします。】

C) 現在大学で主催している課外教育プログラムも含めて、今後どのようなプログラムを希望しますか。最も希望するものを一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 教養講座等の講演会 | 2. スポーツ講習会等 |
| 3. 海外研修 | 4. 救急法の講習会 |
| 5. その他 (具体的に |) |

質問7. 学期中の平日 (月～金曜日) 1日の生活時間についてお聞きします。

A)～E) の項目毎に、それぞれあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

A) 睡眠時間は

A-1) 実習がない期間

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 3時間未満 | 2. 3時間～時間未満 | 3. 4時間～5時間未満 |
| 4. 5時間～6時間未満 | 5. 6時間～7時間未満 | |
| 6. 7時間～8時間未満 | 7. 8時間以上 | |

A-2) 実習期間中

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 3時間未満 | 2. 3時間～時間未満 | 3. 4時間～5時間未満 |
| 4. 5時間～6時間未満 | 5. 6時間～7時間未満 | |
| 6. 7時間～8時間未満 | 7. 8時間以上 | |

B) 学習時間は

B) - 1) 普段時 (実習がない期間)

(1)-1 専門科目

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分～1時間未満 | 3. 1時間～2時間未満 |
| 4. 2時間～3時間未満 | 5. 3時間以上 | |

(1)-2 上で「30分未満」「30分～1時間未満」と回答した人にお尋ねします。

その理由として最も当てはまるのはどれですか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 勉強の仕方がわからないから | 2. アルバイトで忙しいから |
| 3. サークルが忙しいから | 4. 家庭の事情で忙しいから |
| 5. やる気がないから | 5. テスト前にすればよいから |
| 7. 授業のみで十分理解できているから | 8. 人間関係のことで手がつかないから |
| 9. その他 | |

(2)-1 基礎教養科目

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分～1時間未満 | 3. 1時間～2時間未満 |
| 4. 2時間～3時間未満 | 5. 3時間以上 | |

(2)-2 上で「30分未満」「30分～1時間未満」と回答した人にお尋ねします。

その理由として最も当てはまるのはどれですか。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 勉強の仕方がわからないから | 2. アルバイトで忙しいから |
| 3. サークルが忙しいから | 4. 家庭の事情で忙しいから |
| 5. やる気がないから | 5. テスト前にすればよいから |
| 7. 授業のみで十分理解できているから | 8. 人間関係のことで手がつかないから |
| 9. その他 | |

B) - 2) 実習がある期間

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分～1時間未満 | 3. 1時間～2時間未満 |
| 4. 2時間～3時間未満 | 5. 3時間以上 | |

C) 自由時間 (TV・音楽・電話等) は

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1時間～2時間未満 | 3. 2時間～3時間未満 |
| 4. 3時間～4時間未満 | 5. 4時間以上 | |

D) 通学時間 (片道) は

- | | | |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 30分未満 | 2. 30分～60分未満 | 3. 60分～90分未満 |
| 4. 90分～120分未満 | 5. 120分以上 | |

質問 8. 健康状態についてお聞きします。下記の項目から最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

1. いつも好調で、異常を感じない
2. 1年に1~2回風邪をひく程度
3. 3ヶ月に1~2回は病気によって欠席することがある
4. 1ヶ月に1~2回は病気によって欠席することがある
5. 常に疲労感や不調を感じている
6. 治療している病気がある（具体的に)
7. その他（具体的に)

質問 9. 食生活についてお聞きします。

A) 朝食は食べていますか。

1. ほとんど毎日食べている。
2. ときどき食べている。
3. ほとんど食べていない。

B) 昼食は食べていますか。

1. ほとんど毎日食べている。
2. ときどき食べている。
3. ほとんど食べていない。

C) 夕食は食べていますか。

1. ほとんど毎日食べている。
2. ときどき食べている。
3. ほとんど食べていない。

質問 10. 入学してから今までに、悩みや不安はありましたか。

1. あった（ある） → （質問 10-1）へ
2. なかった（ない） → （質問 11）へ

質問 10-1. [質問 10 で 1. あった（ある）] と回答した学生にお聞きします。

A) どんな悩みや不安がありましたか（ありますか）。下記で該当する項目全てに○をしてください。

1. 看護師・助産師としての適性
2. 学業に関する能力的問題
3. 健康について
4. 人生観について
5. 将来の進路
6. 友人との人間関係
7. 異性問題
8. 家族や家庭内のこと
9. 経済的な問題
10. 課外活動
11. その他（具体的に)

B) その悩みや不安を誰に相談しましたか。下記の項目のなかで最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

1. 誰にも相談しない
2. 友人
3. 家族
4. 大学の教職員
5. 恩師や先輩
6. カウンセラー
7. その他（具体的に)

【全員の学生にお聞きします。】

質問 11. 大学の学生相談室を、あなたは利用したことがありますか。

- | | |
|---------|------------|
| 1. 利用した | 2. 利用していない |
|---------|------------|

質問 12. 今後、学生相談室をあなたは利用したいと思いますか。あてはまるもの1つを選んで○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 利用したい | |
| 2. 利用したいがちゅうちょする（その理由： | ） |
| 3. 利用したくない | |
| 4. わからない | |

質問 13. 次に大学生生活についてお聞きします。

A) 本学を選んだ理由は何ですか。該当する項目全てに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 大学の特色（教育内容や専攻分野など） | 2. 奨学金制度が充実しているから |
| 3. 就職や将来のことを考えて | 4. 大学の立地条件が良いため |
| 5. 周囲のアドバイス | |
| 6. その他（具体的に | ） |

B) 本学に入学してよかったと思いますか。最もあてはまるもの一つに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|---|
| 1. よかったと思う
（具体的な理由： | ） |
| 2. よかったとはいえない
（具体的な理由： | ） |
| 3. どちらともいえない
（具体的な理由： | ） |

C) 本学での勉学を続けることについてどのように考えていますか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. このまま勉学を続ける | 2. 他の看護系大学へ転学したい |
| 3. 看護系以外の専攻に変更したい | 4. その他 |

D) あなたの学生生活は充実していますか。最もあてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 1. とても充実している | 2. やや充実している | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり充実していない | 5. まったく充実していない | |

E) 大学生活の中であなたが大切だと思っていることは何ですか。

主なもの2つ以内で選んで○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------|
| 1. 専門的知識や技術を習得する | 2. 教養を深める |
| 3. クラブ・サークル等で活躍する | 4. 自由を満喫する |
| 5. 交友関係 | |
| 6. その他（具体的に | ） |

F) 大学に対して特に期待や要望することについて、下記の項目の中から3つ以内で選んで○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|---|
| 1. 教授陣の充実 | |
| 2. カリキュラムの改善 | |
| 3. 授業内容の改善 | |
| 4. 講演会、教養講座等課外教育プログラムの充実 | |
| 5. 正課関連施設・設備（例えば、教室や図書館など）の改善 | |
| 6. 福利厚生施設・設備（例えば、食堂やロッカー室など）の改善 | |
| 7. 課外活動施設・設備（例えば、部室や自治会室など）の改善 | |
| 8. 奨学金・貸付金・融資資金等の充実 | |
| 9. 学生の就職指導の充実 | |
| 10. その他（具体的に | ） |
| 11. 特にない | |

G) あなたが上でとりあげた項目の具体的内容について教えてください。1つの項目についても結構です。

--

質問 14. 卒業後の進路（希望も含む）についてお聞きします。以下の項目の中で最もあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---|
| 1. 病院等に就職 → （質問 14-1）へ | |
| 2. 企業・自治体に就職 | |
| 3. 大学院に進学 → （質問 14-2）へ | |
| 4. 他大学に進学 | |
| 5. 助産師学校に進学 | |
| 6. 教育機関（養護教員などを含む）に就職 | |
| 7. 保健所・保健センターに就職 | |
| 8. 外国に留学 | |
| 9. 専業主婦（夫） | |
| 10. まだ決めていない・わからない | |
| 11. その他（具体的に | ） |

質問 14-1. 【質問 14 で 1. 病院等に就職】したいと回答した学生にお聞きします。

どのような病院に就職したいと思っていますか。以下の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. 日赤系の病院 | 2. 国公立の病院 |
| 3. 大学病院 | 4. その他の病院 |
| 5. 診療所 | 6. その他（具体的に) |

質問 14-2. 【質問 14 で 3. 大学院に進学】したいと回答した学生にお聞きします。

どの大学院に進学したいと思っていますか。以下の中から1つだけ選んで○をつけてください。

- | |
|-----------------|
| 1. 本学 |
| 2. 本学以外（その理由：) |

最後に、あなたご自身についてお聞きします。

F 1. あなたの学年は：

- | | | | |
|-----------------------|----------|-------|---------|
| 1. 1年 | 2. 2年 | 3. 3年 | 4. 編入3年 |
| 5. 4年 | 6. 編入4年 | | |
| 7. 大学院修士（国際保健助産実践コース） | 8. 大学院修士 | | |
| 9. 大学院博士 | | | |

F 2. あなたの出身地（都道府県名）は：

- | | | |
|--------|----------------|--------|
| 1. 東京都 | 2. 神奈川県 | 3. 埼玉県 |
| 4. 千葉県 | 5. 茨城県 | 6. 群馬県 |
| 7. 栃木県 | 8. その他（都道府県名) | |

F 3. あなたの入試形態を教えてください。（学部生のみ）

- | | | |
|----------|--------------|----------|
| 1. 一般入試 | 2. センター試験利用型 | |
| 3. 支部長推薦 | 4. 公募推薦 | 5. 指定校推薦 |

— 長時間、調査にご協力いただきましてありがとうございました —

ご記入いただきました調査票は、 1月16日までに 学務課前のレポートボックスまで提出してください。

第6回 学生生活実態調査報告書作成メンバー

(○は編集委員長)

小宮 敬子 (教授)
○遠藤 公久 (教授)
斉藤 英子 (准教授)
堀井 湖浪 (講師)
水野 真希 (講師)
岡本 有子 (講師)

第6回 学生生活実態調査報告書 2016年度

2017年3月31日 発行

編集 日本赤十字看護大学大学学生生活委員会

発行 日本赤十字看護大学

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3

電話(03)3409-0875
